CALIFORNIA STATE

NOVEMBER 5, 1921. NO. 7898

The Japanese American News

大正拾年十一月五日（土） 第七千八百九十八號

Published and distributed under permit (No. 178) authorized by the Act of October 6, 1917, on file at the Post Office of San Francisco, California. By order of the President; A. S. Burleson, Postmaster General.

日米

THE JAPANESE AMERICAN
PUBLISHED DAILY AT ELLIS STREET, SAN FRANCISCO, CALIFORNIA

SUBSCRIPTION RATES IN ADVANCE
DAILY......ONE YEAR...... $11.00
DAILY......SIX MONTHS...... 6.00
DAILY......ONE MONTH...... 1.00
SINGLE COPIES.......... 5 CENTS

BRANCHES
DENVER — SACRAMENTO.
FRESNO. — STOCKTON.
LOS ANGELES. — SAN JOSE.
NEW YORK. — SALT LAKE.
OAKLAND. — SEATTLE.
OGDEN. — VACAVILLE.
PORTLAND. — WATSONVILLE.

日米

原氏暗殺

日本國民に採りて無上の大損失

首相原敬氏暗殺の飛報臻る、吾人は頭の頂邊から冷水を浴せ掛けられたやうに、恐怖と悲哀と憤怒と失望と種々雜多な感情に充たされて唯呆然たるより外は無い。吾人は原氏を唯一の力と恃む內閣員の狼狽を想見する。又原氏の力一つで天下を取つて居た政友會員の失望を察する。而かも原氏の死は決して斯かる小さな問題では無い。凡そ日本國民の總べてが慨きと悲しみと憤りに堪ねざる大凶變である。吾人は此凶變を惹起したものに對する國民全般の憤怒を想像する。而かも其當の對手が無智淺見なる一朝鮮人であるに至つては、振り上げた拳固の遣り場に困つて了ふ。怒るにも泣くにも丸で暖簾に腕押しで、斯んな馬鹿げたことは無い。斯んな張合の無いことはない。政治家としての首相原敬氏は所謂白紙主義、熱柿主義の信者で、理想と哲學とに缺けて居た人であつたかも知れぬ。自己の主張を實現せんが爲めには清濁合せ飲み、手段方略の善惡を顧みない大惡黨であつたかも知れぬ。實に怖ろしの力のあつた人であつたかも知れぬ。併し現實主義の人原敬には他人の到底模倣することの出來ない力があつた。實に怖ろしの力の所有者であつた。而して國民は此怖ろしい力に對し多大の期待を持つて居たのである。原氏は所謂政黨政治家の雄なるもので眞のデモクラシーに徹底した大政治家では無かつたかも知れぬ。新たに覺醒した國民の聲を聽き之れに基いて日本の政治を根本的に改造し得る程の大偉人では無かつたかも知れぬ。併し明治の末期以來我日本の政治を禍して居た元老の力を殺ぎ、又國民に採りて獅子心中の蟲であつた軍閥の跋扈を壓へ附けんが爲めには實に無くてならぬ人物であつた。最近三年彼れが內閣の首班に立つてよりの勢力を見よ。其前には憲政會も無く國民黨も無かつた。貴族院も無く官僚も無かつた。軍閥も無ければ元老も無かつた。從つて內政に外交に幾多の失敗を重ぬるとも唯一人彼れの內閣を倒し得るものは無かつたのである。彼東京市疑獄と云ひ、滿鐵事件と云ひ、往年のシーメンス事件や大浦事件に比すべきもので、本來なれば內閣の致命傷ともなるべき筈であるに拘らず、彼れ原敬は平然として秋毫も意に介せず、宛然騏に蚊が止つた位にしか感じなかつたのである。是に於て世人は原內閣を許して不死身內閣であると云つた。反對黨や官僚は彼等が政權と日一日遠かるを悲しみ恨むの餘り、反間苦肉の策を弄して見たが何等の效果をも示すことが出來なかつた。國民は必ずしも原氏に絕大の信望を置いて居る譯では無かつた。併し原氏が元老や軍閥を小供のやうに翻弄しつゝあるを見ては常に拍手喝采を以て之れを迎へざるを得なかつた。國民は少くとも原氏が元老と軍閥とを壓伏し得る人であることだけは信じて居た。否原氏の力を借りて其事だけは是非遣り遂げて貰ひたいと期待して居たのである。此意味からして原氏の死は吾人に採りて此上も無い不幸であると云はねばならぬ。原氏の死後誰れが其後任者として首相の印綬を受けるか、誰れが其遺鉢を襲いで政友會の總裁になるか、是等に就いては非常に困難な而かも危險な事情が起つて來るであらう。從來は殆んど原氏の獨裁で萬機を決して來たのであつたゞけ、他の閣僚等が首を鳩めてする相談が果してどんな處に落ちるか實に危いものである。併し一方華府會議だけは原首相が居ないでも全權の判斷で遣つて行けるのであるから却て便利であるかも知れない。最後に此凶變の張本人たる朝鮮獨立黨の連中に對しては唯如何にも馬鹿げたことをして呉れたと云ふより外は無い。前にも述べた通り從來朝鮮人の恨を買つたものは日本の軍閥と官僚との惡政治では無かつたか。今此軍閥と官僚とを倒すことの出來る唯一の人物を殺して了つて彼等は果して何の得る所があらう。馬鹿に附ける藥が無いとは實に此事である。原氏は實に馬鹿々々しい死に方をした。其死には何等の華やかさも無い。云はゞ自働車に轢かれて死んだも同樣である。吾人は無爵にして宰相となり、天下の威信を一身に集めた原敬氏が斯かる不幸な最後を遂げたことを衷心より悲しまざるを得ない。（春舟郎）

本社東京特電（十一月四日午後二時着）

原首相暗殺さる

犯人は朝鮮獨立黨員

＝短刀で刺殺し犯人直に就縛

▽四日夕東京驛の凶變 首相は十五分後落命△

內閣總理大臣原敬氏は本日午後京都の政友會大會に臨席す可く東京驛を出發せんとする際三等待合室に隱れ居たる一朝鮮人の襲擊を受け胸部を數回短刀にて刺され十五分後遂に落命したり犯人は直に逮捕さる 原氏は凶變前東京驛に於て殊に元氣良く見受けられ見送りの政友會幹部並に新聞記者と歡談しつゝありき驛內には多數の旅客ありし爲め凶變は構內に非常の混雜を來し原氏暗殺の詳報は新聞號外にて市內は素より全國に傳播し多大の驚愕を與へたり警視廳にては犯人の氏名を公表せざるも朝鮮獨立黨員の一人なる可しと推測さる

●華府會議全權憂愁

▽華府政界に多大の驚愕

米國々務省は本日午後原首相暗殺の公報を接受したるが軍縮會議を目前に控へたる今日此凶報は華府の政界に多大の驚愕を與へたり當地に在る全權以下の日本委員は首相暗殺の悲報に接し孰れも憂愁の感に堪ねざる有樣にて德川公は米國新聞記者の問に答へていづれも今夕又は明朝本國政府より詳報の到着するを待ち其感想を語るべしと云へり右公報は四日午後十時附東京米國大使館發電に係るものなり（四日華府發）

▲横田氏急遽歸朝す

原首相暗殺の結果として華府會議日本全權隨員の一人たる法制局長官横田千之助氏は即刻歸朝の途に就く可き旨本日公表されたり横田氏は法制問題に於ける原氏の股肱と稱せられたる人なり（四日華府發）

●陸海軍費を大削減

▽總豫算額十四億萬圓と決す

大藏省は大正十一年度豫算編成中なるが今年度よりの剩餘金全く無く新財源の發見も望みなし從つて豫算に大斧鉞を加ふるの必要を認め總豫算を十四億萬圓に縮小し海軍費中より九千萬圓陸軍費より三千萬圓其他の各省豫算より八千萬圓削減するに決定せり各省は極力請求豫算支持に努力するも絕望なり

●具體的海軍縮小案

▽米國政府の提出案已に成る

軍備會議關係電報（十一月四日聯合通信）

確定せる米國の海軍縮小案として軍縮會議に提出せらるべきもの要左の如し

一、具體的にして徹底的なる海軍縮小案を作制して軍縮會議に提出すべし

二、東洋の禍根と認めらるゝ各種の問題を審議議題として提出す

最も顯著なる米國の海軍縮小大體方針は既に決定せられたるが其公表を見ば世界海軍國は皆米國が眞に軍備縮小の誠意ありて華府會議を提議せしを知るに到るべし

▲米國は最大限度縮小希望

米國海軍縮小草案軍縮會に提出せらるゝや列國代表者は多大の時間を費し愼重審議して其贊否を決するなるべく而して米國の具體案に列國反對せば米國は列國代表に新に具體的對案の提出を要求すべし米國代表者は海軍顧問の說に聞き最大限度の海軍縮小案を提出せん會議にては最初に軍備問題を審議し東洋問題は後廻しとすべし（以上華府發）

（暗殺されたる原首相）

◆現代文明の正體

百濟吐龍

文明の慘禍を八釜敷云つた人でオースタリーの醫者でノルダウと云ふのがある。先生の議論は餘りに唯物的で功利的だが、科學を根柢としてデカダン（世紀末の頹廢的傾向）を解剖してゐることは極めて明快である。少くとも現代文明がノーマルだと平氣でゐる人にはノルダウの議論の梗槪だけでも知らせる必要があらう。彼の意見に依れば近代生活の疲勞から生じた變質者所謂デカダンは先づ肉體からして不完全であるといふ。卽ち顏面や頭蓋が左右不平均に發育してをり、又は耳の形が不完全だとか眼が斜視であるとか、よく檢べて見ると畸形片輪な所がある。精神の片輪なことは云ふまでもなく、彼等は矢鱈に自我の念が强く、何事につけても

▲自我中心 で滅法に我儘である。而して意志が弱いから一時の衝動に動き易い從つて頗ぶる沒常識であるとともに道德的觀念が薄く善惡の差別さへ無視しようとする。また非常に情緒が動かされ易い。卽ちヒステリカルで、何でもないことに泣いたり笑つたりする。而して御當人は此感じのするざいのを誇りとして凡俗の及ぶところにあらずと、獨りで得意がつてゐる。而して彼等は

▲傲慢な癖 に意氣地がない。一寸した打擊にもすぐ凹んで了つて厭世悲觀に陷り宇宙人生すべてに對して恐怖する、常に懶惰で元氣がなく何事にも早く倦みつかれて欠伸ばかりしてゐて人の顏さへ見れば愚痴をこぼして淺間しいことを思ひなし而してはげしく自己を呪ふ。其の癖動もすると凡俗を眼の下に見下して自分獨り超然として自から賢くなる。彼等はよく統一のない空想に耽る。彼等には腦力の缺乏から長く注意を一事に集めてこれを判斷し追究し一つの思想にまとめる事が出來ないので、唯曖昧な漠とした順序もない斷片的な空想に耽るより外しかたがない。其れであり乍ら彼等は總てに就いて懷疑的傾向が强く、種々の問題に疑惑を挾んで、其の根柢を究明しやうと焦せる。而うして解決がつかぬといつて騷ぎ立てる。煩悶をする。そして又現在の狀態に安心し居られぬ矢鱈に

▲革命だ改 善だと云つ立てる。然しそれを遣りおふせて自分許りでなく周圍まで煽り立てる丈けの力がないので、いつも中途で投げ遣つて了ふ。ノルドウは銳利な頭で現代文明をオペレートして餘す處がない。社會心理學から云つても、近代人は敏感、卽ち大きなホール滿場立錐の餘地のないやうに人がゐても、ピン一本落ちそれを皆が感じ易いと云ふ點、これが近代人に著るしい特徵であらう これは詮するに神經が病的に過敏になつてゐる爲で、斯く然らしめるものは種々なる刺戟である。激烈な生存競爭場裡にする近代人は疲勞を醫する爲めに人工を以て心身を刺戟して强ひて昂奮させる。又餘りに昂奮した神經を鎭めるがためにも種々な不自然な手段を用ゐるかくて病的な神經は刺戟によつてますく病的になり、病的なるが爲めに益々刺戟を求めるといふやうに、相互に原因となり結果となり、其互作用して行くのである。で、刺戟劑として用ゐられる酒や煙草の消費高がた上の御法度があるにも係らず實際に年々增加して行くのは統計の示すところである。酒、煙草、鴉片、アッシシユ就中アブサントのやうな强烈劑が平氣で用ゐられるのも近代人がいかに强烈なる刺戟を欲するかゞ知られるだらう。

●日英米三國の協商

▽德川公華府にて希望を述ぶ

華府會議日本代表德川公は日英同盟の代りに日英米三强國の了解又は協商の成立を希望する旨發表せり德川公は日本が米國にて反對ある日英同盟廢棄を喜んで實行するやとの質問に答『君は日英米三國間に了解の成立するを至當と信ぜずや予は思ふ我國と英米と握手して友情を未永く保ちて各其天職を遂行すべきなり斯の如くして世界の平和確保せらるべし米國には或は他國と同盟を締結し難き事情あるべし然れども其形式の如何は關する處にあらず唯右三强國間に未永く友情的了解のあらんことを望む』と語れり（華府發）

▲日本日英米の協商提出か

右の德川公の意見は私見として發表せられたるものなるが日本政府高官の此種意見發表は是をもつて嚆矢とす日本は華府會議にて日英同盟中の米國に脅威となる部分の改正を必要と信じつゝあり德川公の談話中には濃厚に日本が日英米了解を提議せんとする色彩を認められたり

▲人口增加と平和の發展策

德川公は日本の膨脹發展策に關する質問を受け答へ日本人口は盛んに增加す故に日本は或地方に向つて膨脹せざるべからずと云へり然れども德川公は如何なる地方に向つて發展せんとするやは明言せざりき唯發展と云ふも領土獲得を意味せずと附言せり

▲極端なる平和主義を排す

日米戰爭の危險ありやとの質問に對し德川公は日米戰爭の風說は全く根據なき想像と云ふの外なし然れども誤解を一掃せず其儘に放置せば親密なる國際間にても敵となる憂あり特に日米間の關係のみを意味せず如何なる國家の間にても同樣の危險あり余は日米間に決して戰爭あるべしとは信ぜず余は平和を愛好す然れども如何なる高價を支拂ひても平和を支持せんとする極端なる平和主義者にもあらずと明言せり

●露國は華府會議に無關係

勞農外相チッエリン氏は日英佛並びに米國に軍縮會議に關し反對の覺書を送り露國は華府會議の決定に何等拘束せらるゝの義務なく露國の自由意志にて同會議決定事項の施行を阻止する事あるべしと通告せり（モスコー發）

●華府會議滿場贊成

英國下院にては勞働議員の提出せる軍縮及び極東問題の華府會議を穩かに承認するの動議を二時間半討議し滿場一致を以て可決採用せしが多數の贊成者は決議を贊し且つ會議の成功を希望することを述べたり

●日英同盟更新の討議差控

議論は一般の利害關係に反するものと認め居る政府黨の首領オースチンチャーレンバレーン氏に依りて差し止められたるものと解せらる

●パ將軍辯駁發表

歐洲出征米軍總司令官たりしパーシング大將はワットソン上院議員の米軍は兵士を審問に附せずして死刑に處したりとの攻擊を全然根據無しと辯駁せり（ナツフレユビル發）

●支那と山東

山東還附問題に關する日本政府の通牒に對する支那政府の答牒は本日到達せるが支那政府は依然其舊見解を變せざる旨を言明し日本の提案は支那國民の期待と相距ること遠しと云へり（東京）

●休戰記念日確定

過日上下兩院を通過せる十一月十一日を休戰記念日とする決議案に大統領署名せり此記念日は今年のみに制限せらる（華府發）

●英提督と晚餐會

米國に滯在中なる英國名將ビーテー提督は來る十一日華府にて催さるる大海軍日晚餐會に出席せん尙晚餐會には同提督指揮の下に對獨戰に從軍せる米海軍軍人多數列席せん（華府發）

●支那代表者任命

駐英顧公使並に駐米施公使は華府會議の支那代表として正式に大總統徐世昌よりの辭令を接受せり彼等は大使の資格を授けらる（同上）

●軍縮會議事公開

ノースクリッフ卿は東京各新聞社主催の晚餐會に臨み軍縮會議の議事は總て社會に發表すべしと論じたり尙同氏は愛蘭土問題にフランデヴアレラ氏民衆の意志代表するとせば解決未だ困難なり（東京發）

●禁酒厲行の增費

米國議會は次會計年度に於て禁酒取締費用として一千萬弗支出を要求せしが本曆年度よりも二百五十萬弗の增加あり禁酒官ヘイネス此の發表に關して經費の增加は禁法厲行を一層有力に强制する上に必要なりと云へりと（華府發）

THE YOKOHAMA SPECIE BANK, LTD.
415-429 Sansome St., San Francisco, Cal.
P. O. Box 3125 Tel. Kearny 1396

橫濱正金銀行 桑港支店
資本金一億圓 積立金五千八百萬圓
預金總額五億五千七百萬圓
外國爲替預金送金貸附割引等一般銀行業務一切
鄕里送金 日本全國何レノ地ヘモ無手數料最近便ニテ發送
本店預金 通知 百圓に付日步壹錢壹厘 定期 六ヶ月以上三ヶ年迄 利息年五分二厘 特別 十ヶ年迄（重利）利息年五分二厘 目下
支店預金 定期 六ヶ月年三分 一ヶ年年四分 保護（無利息）

大正十一年度 —日記類—
當用日記 大形上製 一、四〇 中形總革 二、〇〇 中形背革 一、二五 小形上製 七五 中形上製 一、〇〇
家庭日記 中形上製 一、〇〇
英文當用日記 一、一〇
英文懷中日記 八〇
大正十一年運勢曆 三〇
大正十一年御壽寶 二〇
青木大成堂
1601 Geary St.
Tel. West 5361
San Francisco, Cal.

羅府 イーグルホテル
日本行各汽船切符代理店
各室、湯、水、スチーム、ヒーター等最新設備完全
ロスアンゼルス市東一街一二九半（電話一五一五九）

羅府 ホテルニューヨーク
食堂、自動昇降機、スチーム、ヒータ等最新設備
Hotel New York 305 E. 2nd St., L. A. Calif.
ロスアンゼルス市東第二街三〇五（電話一二八六七）

みかどホテル
羅府東第一街三三一半
331½ E. First St., Los Angeles, Cal.
日本行汽船切符取扱（電話）一一七〇四

帝國ホテル
日本行汽船切符販賣
ガーフイルド 二一八一

小川ホテル
日本行汽船切符御申込に應ず
日本御料理
桑港カリホルニア街六一二 電話カーネー一八一六
桑港パイン街五五一 551 Pine St., S. F. Cal.

華府會議前佐藤將軍の書を
呪はれたる日本 佐藤中將著
▼四面楚歌呪はれたる日本如何の狀ぞ
▼本書は米人の日人排斥の實狀を詳細に說く
▼華府會議前必讀の書籍は即是也（三弗）
日米もし戰はば 佐藤中將著
▼著者日米の危機を憂慮して本書を著す
▼立論剴切悉く軍事眼より成る快著なり
▼華府會議前本書の講讀を薦む（二弗半）
日米戰爭夢物語 佐藤中將著
▼刻下の日米關係奈何を知らんとする人士は
▼夢物語に諷されたる眞理を攝取せよ
▼夢物語に非ず眞に是れ豫言的實感の敍述（二弗）
日本と戰む乎 佐藤中將譯
▼原著者はコロンビヤ大學敎授ヒトキン也
▼日米問題に對する纖細なる研究報告書也
▼是亦華府會議前に讀まざる可からざる書也（三弗）
北米の五車堂
Tel. West 5488 1698 Post St., S. F. Calif.

THE SUMITOMO BANK, LTD.
(COMMERCIAL)
315-319 California St., San Francisco, Calif.
Tel. Sutter 196
株式會社 住友銀行
桑港支店 桑港カリホルニア街三一五—三一九
一本國特別定期預金（利息目下年五分二厘）
從來大阪東京及び橫濱の當行各店にては特別小口當座預金を御預り出來ぬ事となりまして預金せらるゝ方は大變御不便でありました、それで今回特別小口當座預金の名稱を特別定期預金と改め大正十年一月一日より當行何れの店にても御預り出來る事と致しましたから續々御振入れを御願ひ申します
最初期限を一ヶ年として御預り致し期限に御引出しなき時は、更に一ヶ年繼續御預入れのものとして當方にては利息を元金に繰入れ其の日に於ける當行所定の定期預金利率に依り利息を附ける事として滿十ヶ年間は每年之を繰返しますから、每年書替への手數もなく誠に御便利であります

CAL. STATE LIBRARY,
SACRAMENTO, CAL.

政黨首領としての原敬氏

＝加藤、犬養兩黨首との比較

原氏は直覺的洞察力に富んで居る、加藤子は演繹的推論に長じて居る、犬養氏は藝術的情操に豊かである、是はうれでく彼等の特色と言つても可からう從つて是が又彼等の人格全體の傾向を作て居るやうに思はれる

原氏は『五分間以下議論を繼續する者は愚者だ』と言ふさうである、それ程彼の頭腦は明晰鋭利であるが彼が機に臨み變に應じて判斷を下し計畫を立つることの電光石火的であるのは智慧以外に別に天來の直覺的洞察力とでも云ふべきものがあつて然るにはあらざるかと思はしめるのである、蓋し人格の或者は衝動性に富み煩瑣なる推理を用ひないで直に事物の眞相を看破する一種の能力を有することがあるそして此能力は鋭利なる智性の緊張裡に現はるゝ者もあり或は熱烈なる情性の緊張裡に現はるゝ者もあるが、大發明家、大事業家、大政治家、大軍略家などは前者の人格に屬する者が多く大理想家、大宗敎家、大藝術家などは後者の人格に屬する者が多い而して原氏は前者の傾向を有し犬養氏は後者の傾向を有するやうである

直覺的洞察力に富んで居る原氏は自然學問上の原理原則に重きを置かず、直に事實の上に立つて一己獨自の進むべき道を發見しやうとする、從つて彼の明断鋭利なる頭腦は常に歸納的に働く傾向を有して居るのである加藤子も亦原氏に劣らざる鋭敏な頭腦を有つて居るがその思索の傾向は原氏に反し學問上の原理原則に最高の權威を認め之を前提とした る演繹論理の形式を踏んで進まうとするやうだ、原氏を歸納的人物を稱することを得るならば加藤子は演繹的人物である、即ち原氏の態度は實際的創作的で加藤氏の態度は抽象的、批評的に傾く演繹的人物は明白透徹正々堂々として高尙の外觀を呈するけれども内面に生命の躍如たるものがなく、實行力に乏しい、惡評すれば一個無價値なる論理的遊戲に墮することがある、歸納的人物は事實の間に彷徨して部分に囚はるゝ弊があるので一見凡俗なるが如く低調なるが如く外觀甚だ振はないやうではあるが新生命は常に内に躍り乾坤一擲の大事業を敢行し得る者は彼等であるヤツ付ケ得る者は彼等である、何となれば一個の原則から演繹して結論を得ることは冷靜にして透徹なる頭腦を有つて居れば机上で出來るけれども原則をを創造しやうとならば直接宇宙の大秘密裏に飛び込んで探し廻るの大勇氣そうして鋭利なる直覺的洞察力とを有たねば出來ないことだ引力說から演繹して地球廻轉の結論に到達するのは鋭敏なる頭腦を有する者の出來ることであるがリンゴの落つるを見て地球の引力を見出し新たに引力說を確立したるが如きは、鋭利なる直覺的洞察力と大なる勇氣と熱誠とを有して居る者でなければ出來ぬ、故に『天才は冒險家である』と言つた者さへある

原氏と加藤子との傾向を右のやうに考へて見れば頗る興味がある加藤子の演說……憲政會大會などでやる所の……は博言宏辭、論理整然、詳說細論、威風堂々とも言ふべき觀があるけれども、それは觀兵式的の威風であつて敵黨を討つの力に乏しく人を動かす熱が足らぬやうに感ずる、而して彼が左顧右眄普選問題に對して理屈の立て方を考へつゝある間に原氏は乾坤一擲議會を解散して現實に新生面を打開した

直覺的洞察 歸納的思索 現實に立脚

原氏は直覺的洞察力に富み、歸納的思索の傾向を有し、常に現實の上に立脚しやうとする。彼は百年の大計は今日の事實を最も善く處分することにあつて存ぞると考へて居るであらう、キリストが『汝等明日の事を思ひ煩ふ勿れ、今日は今日の事を思ひ煩へ、一日の苦勞は一日にて足れり』と言ひ、禪僧が、當意即妙の修養をなす如き彼の信念

信念と言ひ得ないならば彼の態度に近いものである、彼は超然主義とか政黨主義とかと世間が騷いて居る間に、默々として實力の蓄積に努めた、當勢擴張に全力を傾けた、世間からは主義なく主張なき機會主義者と罵られ官僚の走狗、憲政の賊など云ふ惡評を浴びたけれども彼は之を馬耳東風と聞き流し、桂公と妥協し、山本伯と提携し寺内伯と協調した、是れ言ふまでもなく、彼が今日の事實に重きを置いた結果である、氏は事實に於て當時日本の政權は必ずしも多數黨の手に落つるものでないことを知つて居た、氏は當時政治の中心が多數黨と長閥若くは薩閥の或一方との交叉點に存する事實を見た、

如何さま、維新以來五十年、前半期に於ては薩長の二大勢力相對峙し土肥其間に介在して、巧に兩勢力と離合しつゝ政權は移動したものである、後藤象二郎、大隈重信兩氏の如きは、斯くして地位を贏ち得た人であると見らるべき理由がある、後半期に至り、自由、改進の二政黨は土肥に代つて立ち、薩と長とは各々彼等の一方と結んで爭つた改進黨の大隈侯が黑田内閣に入れば自由黨の板垣伯は山縣公を援け、板垣伯が伊藤内閣に入れば、大隈侯は松方内閣に入つたものだ、

長閥が自由黨に接近したのは進歩黨(改進黨)が薩閥と結んで所謂松隈内閣を組織した結果であつて、山縣公が大隈侯を援助して内閣を組織せしめたのは、政友會が薩閥と結んで山本内閣を組織した結果であると見ることが出來る、實に薩長兩閥と自由、改進兩黨とは錯綜纏綿しつゝ均衡を保持して來たのである、若し政友會にして桂公を捨てんか、國民黨の一部即ち改革派なるものは直に之を拾はうと待ち構へて居た假令政友會が妥協しなくとも必ずや一方の政黨によつて妥協は行はれたに違ひない

果して然らば妥協なるものは當時の大勢であつた、必然であつた彼は此事實の上に立脚したのである、伊藤公の政友會を組織するや間もなくして桂内閣と戰ひ解散まで受けたものであつたが重ねて解散に會ひさうになつたら――尤も政府の誘惑もあつたが、政友會は大動搖を起し遂に伊藤公は政府と妥協した、後に公が樞府に逃げ込んだのは長閥との間に纏綿した幾々の事情にも因るけれども、政黨者流の頼み甲斐なきに愛想を盡かしたことが、其一原因になつて居るを推察すべき材料がある、原氏は曾て當時を私に語つて『實に何にも斯うにもお話にならぬ始末だつたからね』と苦笑した伊藤公と桂公との妥協の内約が成立したことを聞き出した黨員の多くは、公は吾々黨員を賣つたと言つて憤つたが、中には眞に憤つた者もあつたらうけれども、寧ろ蔭辨慶が多かつたらしい、當時伊藤公は代議士會に於て妥協の理由を證明し『諸君の中には勇氣勃々たる人多ければ再三の解散にも頓着せざるべきも、我輩は苟くも諸君の信任によりて總裁たる以上諸君をして斯る不幸に陷らしむるを見るに忍びぬ』と言つたものだ、是れ實に黨員に對する深刻なる皮肉ではないか、そして松田正久男も亦黨員に辯明する所があつたが『總裁は諸君のため救世主である』と言つたやうな口吻であつた、

原氏は其頃から黨人を率ゐて官僚と戰ふことの困難を知つた是に於てか伊藤公と共に政黨から逃げ出す代りに妥協の術を採つたのである

今日の意義 眼前の形勢を洞察して妥協

原氏の妥協政治は傍觀者から見れば、誠意も勇氣もない一時の胡魔化しのやうであるけれども、彼自身に取りては徹頭徹尾眞劍であつた、全力を傾倒した大仕事であつた、

横井小楠は『自分が今日行つたことに就て、明日批評せらるを のは迷惑である、今日の事は今日之を批評して貰ひたい、自分は今日は今日の最善を盡し、明日は明日の最善を盡す』と云つたさうであるが、是れ其まゝ取つて原氏の言はうとする所であらう、彼は今日には今日の意義があり、明日には明日の意義があると信じて居る、彼は前祝もせず、取越苦勞もせぬ、後悔の愚痴も言はぬ、一刻一刻その最善を盡すからである、そして彼には人事を盡して天命を待つ一種の悟りがあるからである

併しながら部分があつて全體は存し全體があつて部分は存する今日があつて永久は存し永久があつて今日は存する、根柢に一の理想があつてこそ初めて今日の最善も明日の最善もの間に聯絡があり今日の事を明日改むるに意義があるのである、小楠やキリストの眞意も亦茲にあつたに違ひない、禪は當意即妙を修養するけれども一大精神、一大理想が其底に流れて居なければなか／＼以て當意即妙とは參らぬ、當意即妙といふとは充實せる生活力が理想を通して發現する狀態であらうと思ふ、原氏の現實主義――斯ういひ得るならば――は理想を通したものであるか何うか

原氏は眼前の形勢を洞察して妥協政治を行つた私は曾て此事に關して彼に質したことがあるが私は『妥協は一度でも此方から求めた事はない、先方から申し込んで來た時に此方は自分の政策の根本組織を破壞しない範圍で讓歩したのだ、決して苟合はしなかつたのである』と答へた、如何にも私の聞く所に誤りがないならば桂、西園寺の妥協時代に於て最も手強く官僚と抗爭したのは彼であつた(つゞく)

桑港市場＝農產物

十一月四日……金曜日

ポテトー下落 石榴多量出荷

▲苺保合 ●●● 本日合計百一チエスト出荷あり、市價は保合の態にあり

▲出荷分量 ●●● 本日エキスプレツスにてフイツグス三百九十箱トメトー三箱、ペツパー二箱、エツグプラント十九箱、キユカンバー廿五箱、マシルーム十箱、レタス八クレートグレープ四百六十八箱、ピンズ五袋、ピース廿六袋出荷ありたり

▲ポテトー下落 ●●● ポテトー出荷多く市價下落したり二弗十五仙より二弗廿五仙に落つ上等もの二弗七十五仙を出でず

▲鷄卵上落 ●●● 上等一仙方下落六十八仙半となれり

▲石榴多し ●●● 石榴の出荷多く市價安し

◆果 實 類

▲栗 一封度十五仙より十七仙
▲ウオルナツツ 一封度二十仙
▲オリーブ 一封度五仙より八仙
▲石榴 大箱二弗より二弗半小箱七十五仙より一弗
▲柿 一箱二弗より二弗半小箱一弗より一弗半
▲グレープ イサベラクレート二弗より二弗廿五仙コンコンクレート一弗五十仙より一弗六十仙ラグボツクス二弗より二弗半トーケイクレート一弗半より一弗六十仙ラグボツクス二弗より二弗七十五仙ブラツクラグボツクスより二弗半より三弗シードレス、クレート三弗廿五仙より三弗半ラガボツクス四弗半より五弗マスカツトクレート二弗より二弗半ラグボツクス三弗より三弗五十仙マラガクレート一弗五十仙より一弗七十五仙
▲ペーヤ 一箱バートレツト上等三弗より三弗五十仙二等品一弗半より三弗二十五仙ウインターネルス一箱二弗半より二弗七十五仙
▲プラム クレート、二弗より二弗二十五仙上等二弗半
▲フイツグス ダブル箱ブラツクミシンル六十五仙より八十五仙ダブル一弗五十仙より一弗七十五仙
▲オレンヂ バレンシヤ一箱チヨイス四弗七十五仙より五弗フアンシ六弗より六弗廿五仙
▲レモン 一箱チヨイス三弗半より四弗フアンシー四弗半より五弗
▲レモネート 一箱二弗半より三弗
▲グレープフルーツ 一箱三弗廿五仙より三弗半フアンシー五弗より五弗七十五仙
▲アツプル ニユタンピピン三弗半及四弗テーヤ二弗より二弗二十五仙四弗テーヤ一弗五十五仙ベルフラワ三弗テーヤ一弗五十仙より一弗六十五仙四弗テーヤ一弗半より一弗五十五仙上グラベンスタイン三弗テーヤ二弗二十五仙より二弗半四弗テー及四弗テーアーヤ一弗半より一弗七十五仙
▲クインス 一弗廿五仙より一弗半
▲バナナ 一封度六仙より八仙
▲パイナツプル ダズン四弗より五弗

◆苺 類

▲ストロベリー 一ドロアー七十五仙より九十仙サリナス及遊村一クレート一弗十五仙より一弗九十仙
▲ラスベリー 一ドロアー六十五仙より一弗
▲ハツクベリー 封度九仙より十四仙
▲ブラツクベリー 一ドロア五十仙より七十五仙上等九十仙
▲クランベリ 一箱五弗より五弗半
▲罐詰送り価 一封度ストロベリ九仙ラスベリ十四仙ブラツクベリ五仙

◆野 菜 類

▲コーン 一袋二弗より三弗ハーフムーン一弗
▲スクワシ サンマー八十五仙より一弗上等一弗半クリーム七十五仙より一弗二十五仙イメクアン一弗より一弗二十五仙
▲アーチチヨクス クレート十弗より十二弗
▲ポテトー 一袋新リバー二弗半より二弗七十五仙二等品二弗より二弗廿五仙オレゴンバーバンクス二弗六十五仙より二弗七十五仙サリナス三弗半より三弗七十五仙
▲ペツパー ベル封度一仙より一仙半スタクトンラグボツクス五十仙より七十五仙
▲甘藷 百封度二弗七十五仙より三弗廿五仙
▲エツグプラント 封度三仙より五仙クレート七十五仙より一弗上等一弗廿五仙
▲キヤロツト 一袋一弗より一弗廿五仙
▲ガーリツク 一封度三仙より五仙
▲トメトー 一箱一弗より一弗半上等一弗七十五仙グリーン一弗
▲アニオン 新もの一袋エロー三弗廿五仙ブラウン四弗より四弗半
▲グリンアニオン 一箱一弗半より二弗
▲ピンズ 封度ストリング三仙より四仙上等六仙フイマ五仙より六仙
▲ピース 封度七仙より十一仙半
▲セロリ 一クレート、グリーン二弗より二弗半エロー二弗半より三弗
▲カリフラワ 一封度一仙四分一より上等一弗半
▲キヤベーヂ クレート一弗より一弗廿五仙
▲レタス 小一弗より一弗七十五仙大クレート二弗より二弗半羅府産一弗七十五仙より二弗
▲スピニチ 一封度三仙より四仙
▲ルバーブ 一箱二弗半
▲ターニツプ 一袋一弗

◆瓜 類

▲ウオーターメロン ダズン一弗より二弗
▲ハネデユ クレート一弗より一弗二十五仙
▲カサバ ラグボツクス七十五仙より九十仙
▲胡瓜 ハツトハウス一弗半
▲胡瓜 袋一弗より一弗二十五仙

◆畜 產 物

▲バター 五十仙
▲鷄卵 フレツシエキストラ六十八仙エキストラフアースト六十二仙エキストラプレツ五十三仙フアーストプレツ五十一仙アンダーサイズ四十八仙
▲鳥肉 鷄肉一封度若レグホン四十八仙より五十仙ダツク二十仙より廿二仙ターキ生廿五仙ドレツド四十五仙

機械見習一名 朝八時より午後五時まで至極簡易の仕事 右至急入用に付御希望の方は御來社被下度候 日米新聞社 印刷部

○種子物○ ○當園の種子物の耕作經驗は僅か十八年間 種子物特價表御一報次第無代進呈 ホリスター種子園 園主 山中丈吉 HOLLISTER SEED CO. Rt. 2 Box 112 Hollister, Calif.

■要求欄■

求人 熟練なるアイオン一名、カウンターマン一名至急入用夫婦者にてもよし 王府ピードモント街三八六四 電ピードモント三四二三 サンセット洗濯所

◎アイオン師一名至急入用給料面談 參謀パイン街二一〇四 電話參謀三四四六 ノースプレー洗濯所

YMCA サター街一四〇九番 スパニシユー及び英語敎授

求職 ヒールズビジネスカレツヂ卒業の青年銀行又は會社にブツクキーパーとして働き度し 美以敎會内 山戸 電話フランクリン三一八八

見習一名 至急入用給料面談 ウエスタン洗濯所 420 Fell St. S. F. Tel. Market 2432

自動車學生募集 晝に働き 寄宿舍 主任 松崎測三 RAHE AUTO TRACTOR SCHOOL 1505 Locust St. Kansas City, Mo.

アイオン に充分の經驗ある者二名大至急入用 第十街一六七 ピーアルス洗濯所

看護婦及見習 各二名入用希望者は左記へ照會 101 E. Market St. Stockton 日本病院

見習入用 タイヤー修繕の見習生一名入用委細左記へ ホーメソードタイヤ修繕所 2114 Kern St. Fresno, Calif.

英語教授 元ロンドン高等學校敎師 サター街一六一八

■物件■

グロサリー店を賣る、白人向の雜貨店に居宅付、日本人諸君に安價に賣渡し 王府第七街一九六 兆昌グロサリー

洗濯諸機械至急讓度 參謀オハヨー洗濯所々在地が今回オイルに付洗濯諸機械大至急讓度し申込所 電話參謀六二一四四 大學洗濯所

洗濯所賣 最新式機械完備利益確實主人歸國に就き賣渡度し委細面談 王府テレグラフ街二一四二 電話王府二九〇八 テレグラフ洗濯所

靴店讓り度し 桑港日本人街目拔きの地點にて確實なる利益ある靴店主人歸國の爲め至急讓りたし御希望の方は直接御來談を乞ふ 桑港ポスト街一七一七 大橋靴店

藥種店 羅府日本人街目拔の場所に多年の信用あり利益確實なる店を今回都合上賣りたし希望者は左記へ照會あれ 羅府博益社 105 So. San Pedro St. L. A. Calif.

古本買入 如何なる書物にても運賃先拂にて御送附を乞ふ 和洋文房具雜誌一切 文明堂書店 123½ N. San Pedro St. L. A. Calif.

見本進呈 ◎面白き入帳本 ◎其他色々 ◎社會主義の本 ◎目錄進呈 珍書閣 2204 Pine St. S. F. Tel. West 2154

木苺苗 ローガン苗安價にて三万本賣渡し 田中辰治郎 Rt. 4 Box 41 Watsonville, Calif.

■尋ね人■

愛媛縣人 **乘松喜太郎** 小生歸國に付至急逢ひたし御知せ被下度 1016 Santee St. Los Angeles

静岡縣庵原郡蒲原町大字堰澤村 **寺田新作君** 右至要件あり同人の住所御存知の方は左記へ御通知ありたし 桑港ポスト街一六四八 在加蒲原町人貯蓄獎勵會

嶋根縣人 諸君至急必要有之候間現住所御一報被下度候 桑港ポスト街一五五三 島根縣人調査會

熊本縣天草郡大矢野島中村 小幡明 和歌山縣海草郡北島村 師本重太郎 加州羅府東一街三一九 **二野川** 時計洋服店

鮮魚、精肉 和洋食料雜貨一切 蒲鉾製造卸小賣 細工蒲鉾御注文に應じ申可候 桑港ポスト街一七四七 電話フキルモア四二九四 **桑港魚市場**

かまぼこ 製造卸小賣 特に御贈答品は御注文次第調製 並に鮮魚食料品一切 桑港グリー街一五二九 電話ウエスト四三七九 **金門商會**

ラフランス 六 リンカーン 六 貸自動車 低廉 迅速 丁寧 金門商會

醫者と病人 專門 通譯 ▲桑港ブキヤナン街一十三二 ▲電話ウエスト八一二四 鈴木事務所

祝餅並に赤飯 カキモチ煎餅卸小賣 桑港ポスト街一八三二 電話ウエスト一四二八 **春月堂**

進物用 祝儀佛事用として最も高尙優美なる實用品罐入銘茶に限ります

大々走 一斤 七弗 / 大走 同 四弗 / 井々 同 三弗 / 相馬園 一斤 七十五仙 / 全第三 一斤 一弗 / 全第二 一斤 一弗廿五仙 / 全第一 一斤 一弗五十仙 / 全A一 一斤 一弗七十五仙 / 最上煎茶 一斤 二弗

鑵入ノ部: 相馬山 / 千代の友 / 君が代 / 園の香 / 寶來 / 老樂 / 花の香 / 最上煎茶 / 大走 / 相馬白園 / 富士自園 / 王露 / 好の松 / 花白 / 玉冠 / 千萬の榮

合資會社 相馬茶店 電話六三一九八 232-4-6 E. First Street, L. A.

Tel. West 5977 **Taisho Drug Co. 大正藥舖** 1601 Post St., S. F. Cal.
強精 男女 ウエキーアプ 百錠入一瓶五弗、二瓶九弗、三瓶十二弗 最新發見劑男女共に血液の運行を進め精力を增し神經機能衰弱精力缺乏貧血より起る諸病を全治する保證藥なり
通經 快腸 イジーフロー 一週分二弗五十仙、二週分四弗七十五仙三週分七弗 研究實驗の結果良効確實なる月經藥なり
藥局 多年經驗ある日白人藥劑師により藥を低廉に提供す 桑港ポスト街一六〇一 電話ウエスト五九七七

觀光團員募集 ㋟ **田村旅館** 日本行汽船切符取扱 440 Pacific St. S. F. Calif. 電話ガーフィルド二一七六

觀光團募集 第九回桑港旅館組合主催 十二月五日發大洋丸 **紀の國屋旅館** 本館 桑港ブキヤナン街一六二三 電話ウエスト五一六 分館 桑港ナツスパーク八四 電話ダグラス六〇二 館主 沙崎善之助

觀光團員募集 出發期十二月五日大洋丸 **加州ホテル** 桑港スタクトン街一〇一九 電話サター八六六七 館主 中野作太郎

第九回 **觀光團員募集** 十二月五日出帆の大洋丸▲汽船切符取扱 **日本ホテル** 電話ウエスト五一二一五 1551 Laguna St. San Francisco, Calif. 館主 田中米吉

N.Y.K. シアトル出帆廣告

船名	入港	出帆
△德嶋丸	十一月三十日	十二月十五日
△鹿島丸	十一月廿八日	十二月十三日
△せのあ丸	十一月二十日	十二月六日
諏訪丸	十一月廿四日	十二月九日
△でらごあ丸	十二月十一日	十二月廿七日
伏見丸	十二月十五日	十二月三十日
△たがあ丸	一月一日	一月十七日

從來三等船客中手荷物制限量百五十封度の所今月廿四日出帆諏訪丸より百七十五封度に改正す
△印船は貨物船 印無船は一等客室の設備有之横濱迄賃金二百十弗
日本郵船株式會社シアトル支店 409 Colman Bldg. Seattle, Wash.

日米間御旅行者の福音

擴張御披露

拜啓益々御繁榮の段奉賀候陳者横濱市旅館部紀の國屋事大方諸賢の御引立を蒙り繁榮に赴き候段難有感銘仕候然るに昨春は同市花咲町(停車場附近)に分館増設致候處尙ほ御客室の不足を告ぐるに至り候故今般更に北仲通り四丁目万治旅館として知られたる新式旅館を讓受け内部の改築整備を致し日米往復の御方には充分の注意と責任を以て御滿足の御取扱を致す可く候間倍舊の御愛顧を祈度偏に奉願上候
尙横濱に御上陸になれば店員は何れも波止場に御出迎へ致し居ます

加州羅府東第一街貳壹三……貳壹五……貳壹七

本店 株式會社 **東京商會** 洋服並に靴部

横濱市北仲通り四丁目(正金銀行前)
旅館部 **紀の國屋**
横濱市花咲町八丁目 同 第一分館
横濱市北仲通り四丁目 新設(舊万治旅館) 同 第二分館

特約旅館
桑港サウスパーク八四 紀の國屋旅館
同 ラグナ街一五五一 日本旅館
同 ブキヤナン一六四五 エビス屋旅館
同 グリー街一五二三 南海屋旅館
羅府東二街三〇五 ニユーヨークホテル
同東一街一二九半 イーグルホテル

◆原敬一代記　學窓から社會へ

【一】

少年時代から端然たる貴公子風
賄征伐問題から大學を退校さる

原敬は安政三年二月九日、舊南部藩の一家老の家に生れて、有福な少年時代を過した、彼は其兄恭と共に漢學塾に學び常に絹物づくめに白足袋を穿いてゐた彼の行儀の正しいのは天性であつて、少年時代から常に端然として

▼貴公子の風　を示してゐた。明治八年始めて司法省に法學校が設立され、全國の藩から看學生を募集するに當つて、彼は第二期生としてそれに投じた。一藩の政治に參與する家老の家に生れた彼が、維新の新氣運に乘じて中央の舞臺に乘り出さうと志したのは極めて自然といふべきであらう。當時

▼彼と同時に　司法省法學校に在學したもの〻中には、故梅謙次郎博士の如き、一代の硬骨記者陸實の如き名士があつた其の他秋月左都夫、加藤恒忠、小宮三保松、古賀廉造、吉原三郎、國府青厓、福本日南の如き名士が數へらる〻。それで學校の成績は多くは吉原が首席で彼が二番であつた。

▼同學の連中　何れも衣肝に至る的の亂暴書生のみであつた中に、彼一人は少年時代の習慣の儘に絹物を着、白足袋を穿いてゾロリとしたハイカラ風をしてゐた、うして溫厚ではあつたけれども、頭腦が極めて明晰で理非を辨別し、打算的能力に秀でゝゐたからして、何事にも一角の意見を有して

▼直截簡明に　對手を論破するといふ有樣で、誰一人として彼に齒の立つ者はなかつた。りれ丈け彼は諸人の畏敬は受けてゐたけれども愛好されるといふ側ではなかつた。しかし彼は毀譽褒貶には冷然として、深く信ずる處あるが如く、其の面には常に透徹した微笑が漂ふてゐた。その微笑は今日の彼には少しく變化して

▼人を小馬鹿　にしたやうな冷笑の影強くなつてゐる。彼は常に同學生の中心となつて、隱然として頭領の槪があつた。強いて己れを高く標榜するのでなく、彼の人に勝れた素質が自から彼を然らしめたものである斯くの如くにして何事も起らなかつたならば彼は最も將來多き

▼秀才として　平和に業を卒へ、そして官吏となつたであらうが、天は彼を大ならしめむが爲めに彼の豫期せざりし試練を下した。それは彼が在學四年の時に突發した同窓生の賄征伐事件であつた。初め彼は此の事件に全然關係がなかつたのである。衆俗に雷同して輕擧盲動する事は

▼彼の潔よし　としない處であつたが、賄征伐問題の爲めに同窓中の羯南、日南諸氏が禁足處分を受くるといふ破目になつて、彼も傍觀して居るわけに行かなくなつた、理非を辨別して、黒白を明かにせずしては、几帳面な彼は一日も其の處に留り得ない性質である。今日でこそ彼の政策は自由放任主義の如く見られて居り、隨つて

▼彼の性格も　清濁併せ呑むの人物であらうと思ふ人も多いやうであるが、政友會兩首領としての故松田正久との關係を見てもわかる通り、彼は寧ろ狹量と言はれるまでに神經質であつた。只北國人通有の意力を以て押へてゐるばかりである。軈て學生大會が開かれ、そして彼は成績が上位を占めてゐるのと議論に於ては

▼無比の能力　を有してゐる事の爲めに、同學生全部から推されて三人の交涉委員の一人に選ばれた。いゝ加減にして置けないのが彼の長所であり又或場合にはうれが短所ともなる、彼は三人の委員と共に幹事に直接談判に膺懸けた。そして學生と賄の何れに非があるかを證明した。幹事の一人に植村某といふ人があつた。端なくも原は此の人と

▼議論を始め　て例の執拗な氣性で飽くまで植村を說破してしまつた。一同は凱歌を擧げて引上げたが、たゞ濟まぬのは植村の心中であつた。植村は好人物であつたけれども、元來正直一途の人であつた丈け深く原の仕打ちを根に持つて何時かは仇を報じようと手ぐすね引いて待つてゐた。すると試驗終了の後ち靑崖、日南、羯南等は相前後して

▼退校すると　植村は原を些細の事件を口實として彼に退學處分を言ひ渡した。長上を屁とも思はぬ彼が如きを放擲しては學校の威嚴に關するといふのであつた。彼の特異な、濃厚な個性的色彩は遂に此の微温的學校生活の叛逆者と認めらるゝに至つたのである。しかし退校處分を受けた原は

▼些の痛痒を　も感じないものらしく、例の如く平然超然として其辭令を受け取つて校門を出た。學校の庇護を受けて始めて世に出づるべく、彼は餘りに獨創的性格の人であつた。多くの偉人天才が然る如く、彼は此時始めて赤裸々の一個の青年として荒波の如き世間に放り出されたのである

▼家老の家に　第二子として育つて、世の風波を全く知らなかつた彼は、これより人間學の第一級に入つたのである。若し彼にして其の青年時代に何等の蹉跌なく、順調に進んでゐたなら、世の多くの少年秀才の歡に漏れず、局長か勢々次官位で留まつたであらう。彼は冷然

▼校門を出て　昂然として前途を望み、そして獨力を以て自己の運命を開拓しようと決心した（續く）

●本日協議の　南北協同

土地法關係實行委員會

本日午前十時より在米日本人會事務所に於て南加中央日會より土地法試訴協定委員として出桑した茅野、笹森、藤岡三氏と北加土地法關係實行委員參集し土地法及び收穫契約試訴に關する諸懸案を協議する筈なり

◇原首相の令嗣　貢君の英國留學

＝副島伯令嗣と同行して
原首相夫人は同道にて
東京中央驛に見送れり

原首相の令息貢氏（二〇）は去月十九日午前十時横濱を發したサルヂニヤ號で同じ劍橋大學に入學する副島伯令息と共に英國に向つた、副島伯令息は嘗て東宮が劍橋大學御訪問の際「自分の

▼朋友副島　といふ者が留學に來るから宜しく賴む」と仰せられた副島伯長男種忠氏である一行の船は二十日午後三時過ぎ神戸に着し一夜をそこに過すことになつて居る、時めく首相の令息の鹿島立ちか華々しい祝福に滿たされたものであることは勿論でその旅立の朝、首相や淺子夫人其他見送りの人々の中に涙する程の喜びに浸つてゐた一人の老紳士があつた、この人こそ貢氏に取つては眞の生みの父親上田常記氏である事を知る人は尠かつた話は遠い

▼十八年前　に遡る、當時大阪毎日新聞社長をやめて閑地にゐた原首相はその甥に當る貢氏を貢氏の父上田常記氏の手から貰ひ受けた此緣組は大阪の鮑で、當時帝國商業銀行大阪支店長であつた上田氏との間に結ばれたものだその後上田氏は帝國商業を去つて現に藤田銀行の營業部長の職にある、二十日朝大阪市外池田室町十番町の宅を訪ふと貢氏の生みの母君節子夫人は淑ましやかな内に

▼歡喜を湛へて語る「貢は去月廿三日愈々英國に立つからと言つて六年振で別れにやつて來ました宅は貢の旅立を送るとて十四日から東京に出向いて居て昨日出帆を送つてその夜の瀛車で貢の從兄に當る麻布の原の息の武と連立つて今朝八時廿六分梅田驛に着きましたので私は驛に行つて出發の模樣を纔の時間で聞いて歸つて來ました、主人はそこからすぐ貢の今日着く神戸へ先廻りをする爲めに同じ瀛車で走つたのです

▼今夜こそ　私と貢の妹や弟達もゆつくり別れの言葉を述べる爲めに神戸の海岸通西村旅館で逢ふ事になつて居ます七十入になる私の母はもう喜び勇んで居ります貢の話によれば留學は六箇年、その間は劍橋大學の寄宿舍に起居するといふ話でした」

▲優しいお父さんに返つて　原首相が船長を招て　令息の爲めに午餐會

▼原第二世が英國へ政治を勉强に

いつも政界に歷々の往來で慌ただしい情景の永田町首相官邸も十月十七日の日曜は寂然閑と、玄關の敷石にも和やかな秋の陽光が流れて居ると午前十一時半頃

▽背廣に　鳥打を着けた一寸見には三十とも思はれる程逞しい格服の一青年が、氣輕にクタクタやつて來て、ベルを押した儘中に入つた、それが今は時めく原首相の令息貢（二十）氏である程なく首相の自動車が着いた、フロツク姿の原さんは流石に今日は莞爾々々、傍に紋付

▽羽織の　淺子夫人を伴ひ、玄關先き迄出迎へた令息と、三人打連れて睦じ氣に奥へ入つた嚴かめしい總理大臣の殼を拔いで親に返つた原さんの後姿が廊下道に消ねた——此度英國に留學する貢氏が初洋行を勧る親心から乘船のサルヂニア號船長以下を招待しての午餐會である、招かれた客様は船長キヤヂチ氏を始め

▽七名程　來る、午餐始まる前に貢氏に會ふと、至極元氣に『學校は劍橋にするか牛津にするか、彼方へ往つた上で選定しますが、約六ケ年の留學豫定で、主として政治、經濟を研究する考へです、イヤ私の希望して居る所を父も薦めるものですから……』と第二世原さんの紅顏は

▽希望に　燃ねてゐた、そして前々から『生意氣によせ』と父さんから止められてゐた寫眞も『今日はよからう』と許り許しが出て、快くレンズに入る、軈て午餐會は、髙橋書記官長や秘書官も列席で食堂を開かれ原さんから『何分に賴みいたします』との挨拶あつて、一時近く散會した、因に貢氏の

▽出發は　副島伯令息純忠氏と共に明十七日の處船の都合で十九日出帆と云ふ事になつた

●桑日會時局費募集　桑日會にては昨日時局費分擔額千六百二十一弗の寄附金募集に付き各區域の委員約百名に宛、なるべく一弗以上御徴收なされたしとの依賴狀を發送した

●英蘭銀行利下發表　英蘭銀行昨朝割引利率を五厘引下げて五歩としたと倫敦電報は報じてゐるが之は一昨日米國の八準備銀行が利下を發表した爲めに之れに倣つたものと解せらる

●藤井大尉昨日出發　既報當地在勤中大使館附武官補佐陸軍大尉藤井洋治氏は愈々昨日當地出發東行したり

●東瀛船長更迭　大洋丸船長東鄉氏下船し長野氏其後を襲つて來航すべしと

●エクアドル號出帆遲る　太平洋郵船のエクアドル號は出帆二日遲れ十一月廿一日出帆なりと

●日本行郵便　最近の日本行郵便の締切日は左の如し▲七日午前十時春洋丸積込み▲七日午後三時ロシヤ號積込み▲二十五日午後三時モンテーグル號積込み

葦笛

評論、感想にて可成材料を時事問題に取りたるを歡迎す▲住所氏名は當編輯局へ通知あるべし▲原稿は長く共一千字位迄▲投書封筒の上に葦笛と記るされたし

◇音樂會の感想

卅一日の夜スコツチツシユ・ライト・テンプルにて催された音樂會に參り自分は色々の感じを與へられた其の赤裸々の感想を述べさしていたゞきたい音樂週の催しに我々同胞も參加したといふ事は大變愉快な事であつた、さてプログラムが少々長過ぎた樣に思つた、最初の開會の辭及び音樂週主旨といふのを司會者一人にて手短かに述べられたら充分であると思つた、川崎寅雄氏の御聲は大きくあつたが他の御二人の音聲は少々低かつた、でも司會者麻生山瀨氏は始終笑顏をもつて聽衆に接せられた事は快感を與へられて嬉しかつた、春洋丸のオーケストラを聞く事の出來なかつた事は物足らなかつた、プログラムの中にて最も自分の興味をもつたのは三谷宜一郎氏の獨唱、まるで女性の樣な優しい感のする聲といひエクスプレツションと云ひ上出來と云つてよい、ただ餘り體を動かし過ぎた嫌ひがあつた、もう一つ印象に殘つたのは甲斐氏の三人の兄弟がピアノ連奏をなし亦は美和子孃がモーシヨンソング或はダンスをなしたなど眞に奥床しく愛らしく直ぐふた清い美しい家庭を想像した自分は三人の父と母なる人を思一體當夜のピアノは何れも低くして力なく感じたものと底力のあるものを耳にしたかつた、松永氏のいかにも謙遜の態度は好感情を與へられたが時々口を開いて何か譜をカウントでもして居る樣にて少々見ぐるしいと思つた、亦池田氏のセロはよかつたが妙な目付きをされたのは少々目障りであつた、柴田夫人獨合に質素な風をされて賴母しくあつた、ただ聲量の少かつた事姿勢の少々惡かつた事が氣になつた。日本音樂に對しては悲くも自分は趣味がないので何も申す事が出來ない、ただ日本音樂は總じて悲哀的のものが多い、所謂日本の國民性が顯はれてゐるの感を深くした、日本の古い藝術として保存する事はよいが第二國民としての幼き人々には日本音樂を奬勵する價値はないと思ふ。最後に當夜最も悲く思ふた事を申したい、未だまだ我が同胞は公德心が足りないと云はんか、無趣味と云はんか、自らは度々この國に來りて音樂會へ參つて其の靜かなゆつたりとした氣分を味つて居る、この間の夜はどうであつたろう？子供をフリーとして入場させたのも一つの原因と思ふが先づ入口にて我さきにと押し合ふ樣案內人の米人にはづかしい氣がした、大人小人に限らず演奏中をも憚からず大聲にて話し或は笑ひ『彼らは一體此處に何のため來たか』と考へて貰ひたかつた、ガムを食べたり紙屑を放つたり實に見ぐるしい樣心苦しかつた者に對して口ぎたなく『簡單々々』とか『ザツツ・エナフ』とか亦は演奏中拍手したり、道德の低い我が同胞なるかなと歎かざるを得なかつた、今後は互に少し謹しもうではありませんか（愛子）

養老保險大募集　完備せる條件を左に紹介す

特典

倍額　負傷に依り即死（其原因場合ひを問ず）千弗之養老に對し二千弗即ち倍額を支拂ふ或は負傷が原因となりて九十日以内に死亡せし場合亦同じ

大負傷　大負傷したもの死亡せず、兩眼、兩手、兩足、或は片手にて足喪失せし場合は額面を一時金で支拂ふ或は月額一千弗に對し二十弗若しくは十弗（申込み當時の契約に依る）を契約期限內に支拂ひ、滿期の際更に額面を支拂ふ、期限內に死亡せし時亦同じ

掛金免除　亦た疾病に依り勞働不可能となりたる時は掛金を免除したる上に月額一千弗に對し二十弗若しくは十弗（申込み當時の契約に依る）を期限內に支拂ひ滿期の時額面を支拂ふ期限內に死亡したる場合亦同じ

婦人の加入を歡迎　既婚未婚を問はず婦人の加入を歡迎す
子供の加入を歡迎　生後幾日を問ず男女命名後より滿十五歳以下の子供の加入を歡迎す

ウエストコースト生命養老保險會社（イロハ順）
特別代理　一安博孝　桑港市パキン街二一三一（電話ウエスト一四一二）
代理　一安官一　桑港サクラメント街三〇五二（電話ウエスト七九六五）
代理　峰田國作　サンノゼ市北六街四八五（電話サンノゼ五七五一W）
●本會社は凡て日本文にて交渉し得る大便利有り
●日本へ歸國後は横濱市山下町萬國銀行內に出所張あり

すき焼　博多屋　ブキヤナン街一七〇九　電話ウエスト一六六二

小幡裁縫學校　桑港ポスト街一八一〇　小幡繁子

上等婦人帽子（製造販賣）　フキルモア街一六四〇　ポストとグリーの間　ローズ帽子店

●患者の福音　當館は如何なる病者でも病名及病源を確し治不治を知らす　規則書入用の方は二仙切手封入申込　易活斷　南北館　桑港ポスト街一七一七

見落す勿れ此悲劇寫眞　永井正夫氏一代の傑作　日蔭の生命　來る十一月五日、六日午後七時より桑港佛教會ホールに於て開演　請元　桑港興行會社

和洋雜貨、時計、寶石類、煙草　財滿商會　桑港グリー街一五一五　電話ウエスト三九二九

開業廣告　ビクター　蓄音器　レコード　及附屬品　寫眞機貴金屬品各種　暗室は無料にて御使用に供す可候間御遠慮なく御來駕被下度候　ブキヤナン街一七一六　電話ウエスト九一〇四　川田商店

Henry G. De Roos, Inc.
88—3rd St., S. F. Calif.
寫眞機「娯樂向」「營業向」寫眞用品一切
寫眞仕上げ、引延、色着け、迅速叮嚀
キヤメラ、レンズ等の交換の需に應ず
其他　望遠鏡、眼鏡
桑港第三街八八（電カーネー五四七五）
沿岸最大　ヘンリー、ヂー、デルース商社
電話次第市內何處でも御註文伺ひに參ります
市外御註文並に御照會は日本字にて差支なし
發送の迅速、荷造りの完全は本商社の特色

船名			日本行
春洋丸	十月廿九日	十一月七日	波止場卅四番
安洋丸	十一月三日	十一月五日	日本行
朝洋丸	十一月十八日	十一月二十日	
波斯丸	十一月廿一日	十一月廿七日	
大洋丸	十一月廿六日	十二月五日	
西比利亞丸	十二月十四日	十二月廿三日	
福洋丸	十二月廿一日	十二月廿三日	
天洋丸	十二月廿五日	一月三日	
コレア丸	一月四日	一月十三日	

マーケツト街六二五　電話サター三九〇〇　東洋汽船株式會社

桑港總領事館認可　桑港旅館組合　▼第九回母國觀光團員募集
▲申込次第趣意書送呈
▲出發十二月五日出帆　大洋丸　▲團員　百五十名
▲申込所　桑港組合各旅館　▲團長　木下乙市
▲幹事　津森安次
本觀光團員は再渡米の際同伴者も共に船室の優先權を有するが故に乘船地に於て馬鹿々々しき費用を要せず又無旅券者と雖も千九百六年以前の渡米者ならば何等再渡米に差支へなき特點あり猶日本出帆地の檢疫及着米の際の檢査等も只形式のみにて心配の必要無し安心して御申込あれ

東洋瀛船會社　日本行瀛船切符特約取次販賣。猶ほ乘船及び稅關の諸手續等は最も迅速に御世話致します
乘船切符は御申込順みより取次申すは勿論ですが冬季船室狹隘の場合は御出桑の順序により取次ぎする事があります

桑港旅館組合

171 So. Park カーネー二七一三
70 So. Park カーネー二七二九
1523 Geary St. ウエスト六九三九
1551 Laguna St. ウエスト五二一五
22 So. Park サター八六六一
1759 Post St. フイルモア三五三一
1645 Buchanan St. ウエスト三四四九
102 So. Park サター八五〇一
1623 Buchanan St. ウエスト五五四六
84 So. Park
551 Pine St. ガーフキルド二一八一
2018 Bush St. フキルモア四四六五
1570 Buchanan St. ウエスト三三三二
1019 Stockton St. ダグラス三一一三
440 Pacific St. ガーフイルド二一九六
1632 Post St. ウエスト九四四八
523 Grant Ave. カーネー一三〇五
108 So. Park ダグラス四八九八
612 California St. カーネー一八一六
104 So. Park 電話ドグラス三九三
1734 Post St. ウエスト一九九一
1651 Post St. ウエスト六二一一

福岡屋　熊本屋　南海屋　日本ホテル　永本旅館　名古屋ホテル　エビスホテル　防長旅館　紀の國屋　ダグラス六四七一　帝國ホテル　日米ホテル　北米旅館　加州ホテル　田村旅館　廣島屋　富士ホテル（玉城）　近江屋旅館　小川ホテル　井木旅館　ミカドホテル　安藝ホテル

仇花實花

—一五一—

長者丸

最初に通つた休憩室には、麥酒やお茶が出てゐる、良太が兄嫁の善子と一緒に其處へ入ると秀實が遣つて來た。

「私たちは失敬をして、もう歸らうぢやないか」

「私なら何時だつて歸つても宜しう御座います」

先つきから秀實が勢喜子とばかり一緒になつて居るので、内心穏かでない善子夫人は其う答へた」

「兄さんたちが御歸りでしたら僕も御供をしませう」

良太が其ういふと、秀實は制めた。

「お前は殘つてた出で、妻君だけ歸すといふ事は宜しくないからね」

其ういつた秀實の意味を良太は直ぐに覺つた。

「其うでしたね、では僕は跡から歸ります」

秀實と善子とが行つてしまつた跡で、良太だけが矢張考へ込んで居ると、眼つきの鋭くて髯のいかめしい、五十くらゐな燕尾服を着けた紳士が狎れ／＼しく詞をかけた。

「君が陸軍少佐の黒江良太君でしたね」

「其うです、僕は黒江ですが、あなたは、何方でしたらう」

「僕の姓名は鳥渡申しかねますが、何うせ跡で分かる事です。何でも君は旅順で大層な戰功をなすつたと聞いて居ますが」

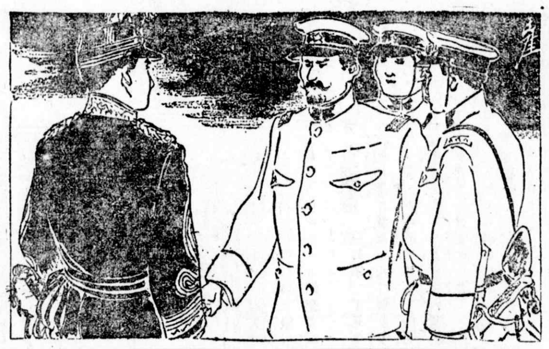
この紳士が自分を部長に遣つてくれる樺太の長官だとは良太は知らないから、名前も名乘らないで無作法な男だと心の中に思つたが、旅順で手柄をしたらうと言はれて得意で喋舌り出した。

「左樣、旅順では可成り働きましたよ、大坪といふ中尉を狙撃した露助を生捕つたのが僕なんですから」

「それで、今日何ういふ生活をして御出でゞす」

「何んな生活と仰しやる意味が僕には能く分かりませんが、これでも陸軍の將校といふ體面は汚さない程度にやつて居るつもりです」

見知らぬ老紳士は、其のほかにも良太が一身上に立入つて色々な質問をするので、妙な奴だと思ひながら好い加減に返事をすると。



「いや、失敬しました、しかし私が何者であるといふ事は、明日にも屹度君に分るでせう」

老紳士は其ういつて、向ふへ行つてしまつた、良太はすつかり呆氣に取られて後姿を見送つて居ると、其の老紳士は主人の伯爵が勢喜子と列んで居る處まで行つて、伯爵に何やら耳打ちをして居る、愈不思議だと思つて居ると、今度は勢喜子が遣つて來た

「あら、お兄さまやお姉さまはもう御歸り遊ばして」

「其うさ」

「では、あなたも歸つて宜いことよ」

「お前は何うするんだ」

「私ですか、私はもう少し跡から歸りますわ、事によると伯爵さまが送つて下さるかも知れませんから」

伯爵といふ名を聞いて、良太は色を變へた。

「そうして、先つき妙な方があなたに口を利いたでせう、あなたは彼の方が誰だか分かつて居て」

「そんな事が分かるものか」

「其うでせうね、でも、明日になれば屹度分かつてよ」

勢喜子まで同じ事をいふのが良太には不思議で成らないが、自分に先きへ歸れといふのに、ぐず／＼して居る譯には行かないから、何うでも勝手にしろといふ氣になつて、獨りで伯爵の屋敷を出て行つた。

秀實夫婦の馬車は、もう行つてしまつたから、ぽつ／＼歩きながら音樂學校の手前まで來ると、闇の中から憲兵曹長の軍服をつけた男がヌツと現れた。

「あなたは黒江少佐殿でございましたね。御尋ねしたい事がありますから、七軒町の分隊まで御同行を願ひます。」

活地獄

(二) 賣渡された旅

道連れの男は私を袢纏着に引渡して了ふと若干の口錢を貰つて私の身邊から離れて了ひました

▲不安の思ひで怎うにか其夜は明しましたが、便所に行くのさへ一々尾行して來られるので萬更子供でもない私の頭には之や何かの計畫があるのだなとは察しましたが、どうせ死ぬ覺悟を持つた自分ですから金にさへなる處迄行つて見やうと決心をしてゐましたので格別怖ろしいともありませんでした

▲其晩になると何處からか又廿二三の男が連れられて來ました其男と私が五人の袢纏着に連れられて上野を發つたのは確か晩の十一時頃の滊車だつたと記憶して居ります、話し忘れてゐましたが淺草のベンチで例の人買の話に愈出發するとになれば辨當代として五十圓を前貸してくれるといふ事がありましたので其れを

▲思ひ出して袢纏の年頭らしいのに此由を頼みますと、親方の處迄行かなくちや乃公にや其話は判らねわと無愛想な返事でした、約束が實行されぬのなら降車て了はう位の事は言へましたが私にも種々と考へがありましたので其儘柔順しく旅を續けました袢纏と私とのはなしを聞いてゐた廿二三の男も矢つ張り私と同じやうな手段で

▲一杯喰はされたなと考へ附いたらしい面持がよく窺はれましたが袢纏の權幕に恐れてか一言も利かずに、ぼんやりと腰をかけて居りました私達二人の連れて行かれる先は北海道です、脅かされるかと思ふと又優しい調子で袢纏着から北海道の

▲内情などを親切に話して貰ひながら、思つたより順調に北海道空知郡にある或る鑛山に近いバラツク式の寄宿舍やうの處へ連れ込まれました、いやな顏色で薄暗い洋燈の下に寢轉んでゐた澤山の鑛夫の眼が一樣に私達二人の姿を見詰ながら「此の二人も虐げられに來たのだな」と云ふ吾身につまされての同情を注いでくれたらしくもありましたが其發時の私に其顏色が明瞭と判らう筈もありません。

八面くらぶ

川柳　羅府　望鹿

渡米して見ば亭主は皿洗ひ

後家さんの歸咲する植民地

女房より亭主の方が先に起き

嫌はれて倘熱くなる戀の人

公認 眞鍋産院　公認產婆 眞鍋みつよ　桑港グリー街一四二八　電話ウエスト七四一八

川口産院　桑港ブキヤナン街一七一四　公認産婆 川口藤子　電話フキルモア四九四七

飯田産院　京都帝大選科卒業　公認産婆 飯田テイ子　桑港ウエブスター街一五六二(ポスト街角)　電話フイルモア二九一一

上田産院　公認産婆 上田ツメ　桑港ウエブスター街一五二六　電話ウエスト五〇六八

加州齒科醫師會　桑港公認齒科醫師(いろは順)

井戸本保之助	桑港ゲリー街一五二六　フイルモア七九二
林秀樹	桑港ポスト街一七七六　フイルモア四二〇九
小川榮一	桑港ブキヤナン街一七三九　フイルモア一九一〇
田中敏太郎	桑港ポスト街一五三〇　ウエスト六八四
山本辰雄	桑港ブキヤナン街一五六八　フイルモア一二六八
谷田部保	桑港ブキヤナン街一六四五　ウエスト五二八二
藤田省三	桑港サター街一八七七　ウエスト八三五〇
木暮篤太郎	桑港ポスト街一六四四(五車堂二階)　フキルモア一二六〇
檜垣益一	桑港ポスト街一六六二　ウエスト二四八四

入院隨意　日本病院　産婦人科、内外科、小兒科、耳鼻咽喉眼科、皮膚科　中村竹之助　桑港パイン街一八一一　電話フイルモア二〇〇四

北河醫院　スタンフォード醫科大學出身 ドクトル・オブ・メヂシン 北河慶次郎　桑港ブキヤナン街一五五二　電話フイルモア五二八八

十全醫院　内科小兒科 加州醫科大學出身 ドクター・オブ・メヂシン 喜安都定　外科婦人科 加州醫科大學出身 ドクター・オブ・メヂシン 橋田慶通　桑港ポスト街一七六三　住宅電話フキルモア二七二九　醫院電話ウエスト九三九八

呼吸器、胃腸、肛門、婦人病、慢性諸症、注射療法、倚數滴の血液にて不明病源診斷す　地方人士は照會あれ　公認ドクトル 伊津野醫院　桑港ポスト街一六九四　オフイス電フイルモア一二六〇　住宅ウエスト七五一九　1694 Post St. S. F.

設備完成入院隨意　帝國病院　加州醫科大學出身 ドクトル・オブ・メヂシン 井木繁喜　桑港ポスト街一六三一　電話ウエスト七二六二　1631 Post St. S. F.

桑港 公認醫師會　●内科、外科、小兒科　●産科、婦人科　ドクトル・オブ・メヂシネ 藤森直和　桑港ウエブスター街一五四八(ポスト街ゲリー街の間)　電話フイルモア五六四

御祝儀　御佛事　御菓子　鑵入銘茶 各種　御菓子司 松屋　桑港ポスト街一六九九　電話ウエスト五三六六

科學的マツサージ　電風呂設備完成　櫻庭療院　桑港ウエブスター街一五四二　電話フキルモアー五七七三

皮膚病 妙藥　▲代價金二弗五十仙　此の薬は内服、外用の二種類にて先づ根本的に身體内部の悪毒を去り外部皮膚のカユがりを癒す持効あり　主治効能 血毒病に、エクジーマー、くさがんがさ、胎毒、いんきん、たむし、カユがり、ただれ、かぶれ、あせも　公認通信一手販賣元 桑港 鈴木事務所　K. S. SUZUKI'S OFFICE　1731 Buchanan St., S. F. Calif.

美人寫眞　●誰も喜ぶ天下一品の○○寫眞 艶麗無比鮮明にして　●事物を見る如し ハガキ形 七枚一組 金一弗　●今右輸入禁止の命令あるフランス物はがき七枚一弗　●大形美人裸體寫眞 一枚七十五仙 十枚 金五弗　●其他五十種類 珍書絆畫があります　WILSON STUDIOS　4331-N-Oakley Ave. Chicago, Ill.

姙産婦取容隨時往診　公認産婆 家木英子(桑港病院)　桑港ブッシュ街一八〇八　電話フキルモア一九八六

内務省免許産婆 倉本ひな　桑港ブッシュ街一九〇七　電話フキルモア一九〇四

公認 林産院　桑港ポスト街一五二八　電話ウエスト五七六八　公認産婆 林イエ

金門産院　公認産婆 村山なみゑ　桑港ポスト街一六二四　電話フキルモア一七六一

HOTEL FUJII　423 Maynard Ave. Seattle Wash.　妻君御親族御朋友御呼寄の際は前以て御通知被下候へば上陸に關し必要なる事項早速御返事可申上候　シヤトル市メーナード街四二三　煉瓦造支館二棟タコマ及キヤマ旅館各二百室最新設　藤井旅館

御提病院囑託通譯　桑港スタクトン街七五八　電話カーネー二四七六　高尾鶴松

藥局　藥品目錄無代贈呈　公認調劑 日本ドラグストア　桑港ポスト街一六九〇 電ウエスト一八六　NIPPON DRUG CO.　1690 Post St. San Francisco.

公認 郵送 大阪藥店 無料 呈覧

沃度療法

●男女 強精錠　精力を増進し神經機能衰弱を治す最新藥なり　百錠入一瓶 五弗　二瓶九弗三瓶十二弗

●有効確實 通經丸　有効安全に通經し身體を健全にする月經藥　一瓶 五弗

●チヱコール 内服藥

▲第一號 肺結核用 七、〇〇

▲第二號 神經衰弱 七、〇〇

▲第三號 急慢性痳疾 四、七〇

▲第五號 肋膜、子宮病 四、五〇

▲第六號 强精氣力增進 五、五〇

●大阪沃度研究所創製奇藥

●有効確實 つわり錠　婦人姙娠時に苦しむツワリも本劑に依りて根治す　全治劑二週分 二弗

●赤十字印 胃腸丸　急性及慢性胃腸病に用ひて卓越なる効果を奏す　胃腸病新劑 百錠入 一弗

桑港ポスト街一五九四　電話ウエスト三四七四　OSAKA DRUG CO　1594 Post St., S.F. Calif.

人名辭典

說明の時期は既に過ぎたり

在留同胞各位の決意を促す

本社は在留同胞大多數の熱烈なる賛助を無にせざらん爲更に締切期日を十一月十五日まで延期し

最も完全なるものを完成せんとす

直ちに決心して申込みあらん事を

在米日本人 人名辭典　日米社同人努力の結晶

一ケ月は忽ち經過すべき日數なり躊躇せず直ちに申込を乞ふ

▼本支社所在地及び附近は社員又は代理人訪問すれど遠方の方は何卒直接御申込を乞ふ

▼申込用紙は御一報次第送呈す

在米同胞各位が互に進んで申込み本書の完成を助けらるゝ既に申込みたる方は本書を益々完全する爲に知己を勸誘されたし……掲載の手續は頗る簡單なり

編纂發行所　桑港 日米新聞社　650 Ellis St., San Francisco, Calif.

東方時論

今日俎上に眠る！明日は奈何？民族的起死回生の道は斯論に據く

俎上に眠る日本　中野正剛

日本の存在問題□太平洋會議の使節□加藤總裁の時局論□躍起と敗北主義者□愚劣なる山東交渉と大連會議

國際廢刀の前夜　杉森孝次郎

□米國の太平洋利權と武裝撤廢　大島高精

屈從は危機を招く　中野正剛

□文化的國民外交の議會　木下二市

日支兩國の相互態度　三宅雄二郎

□歐洲戰爭の教訓と日本　內ケ崎作三郎

革命行程の印度　大山周明

血と涙と感激の革命運動者は知らず聖餐を那邊に捧げんとする

科學教育と人道主義　桑木或雄

□古典主義の心理　[illegible]

□美術上の諸感想　森口多里

資本論に於ける科學問題　朝村銀之助

□米國大學印象記　喜多壯一郎

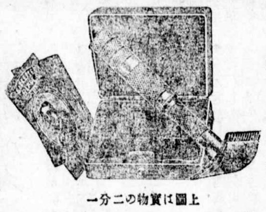
□市街散步者の追憶　[illegible]

新聞と原、加藤、犬養と　谷山草太郎

[illegible]

華府會議出發の功過　杉森孝次郎

米國大賣捌所　桑港 小野五車堂　羅府 博文堂　よろづ書店　其他各地邦人書店にあり



此容器は美麗なるニツケル製　携帯旅行用至便　上圖は實物の二分一

輕便實用經濟なポケット 容器入り 剃刀二枚付にて 唯の代價一弗　極めて簡易に極めて氣持ちよく髭剃し得る ベストポケットレザー　安全剃刀の用ひ心地の好さを實驗せられよ

◎地方代理販賣店御望の方は御照會を乞ふ　◎御試用及見本は一弗紙幣封入の上御注文を乞ふ　歳末迄贈品及御土産に適す

紐育市ユニオンスコー十三二　上野商店　D. Wooyeno Co. 32 Union Sq. New York City.

桑港櫻府電氣鐵道　桑港埠頭キールートより櫻府行毎二時間發車す　San Francisco-Sacramento R. R.　Key Route Ferry. Phone Sutter 339

皮膚病專門男女梅毒全治保證　通信試總て日本文にて賞敷候　診察時間自午前十時至午後九時　醫學博士 劉日初　桑港グラント街五〇二　Dr. LOU YIT-CHO

英語教授　親愛なる日本人諸君の成功は實地的英語習得にあり妾は「キー」著者且十數年經驗あり懇切教授す　Miss. C. RYAN, Tel. West 6125　3103 Clay St., S. F. (Near Baker)

肥料 有効確實 各種販賣 小林商會

貸金 自由公債 フイルモア質屋 [illegible]

草津温泉 湯の花 [illegible]

諸印刷物一切精巧優美に調製可仕候　日米社印刷部 [illegible]

英語教授 寺澤教館 [illegible]

HAWAIIAN FERTILIZER CO.　Fresno Branch

肥料各種 並に石灰及びマヌア

布市エフ街九四九　電話 三九四二W

布哇肥料會社　中加代理人 土肥說吾

日本人に親切な公證人　A. K. DAGGETT 代言人　事務所 Douglas 40　30 Montgomery St., S. F.

勞動能率の消滅 [illegible] J. G. Bauer Jr. 3102 Brighton Road, Pa. [illegible]

御禮廣告　[illegible] 德太郎 [illegible] 十一月四日 [illegible]　妻 石本はつよ　長男 同 茂　親戚友人一同

原さんは偉い人だつたと 日米人みな首相の横死を悲む

その人爲、勢力と政界財界の影響

▼ハアモンド氏に語つた原氏の朝鮮問題意見

▼桑港に來た時の原敬氏、鮮人は同情を失む

‖首相後任は高橋藏相だらう

日本が憲政を敷いてから初めての平民宰相として好評だつた總理大臣原敬氏は四日夕東京驛に於て鮮人の爲めに刺し殺された、其詳報は一面電報に傳へた通りであるが、原氏の人爲、原首相を失つた後繼內閣の問題等に就き本社の得たる日米人知名士の意見及び感想は次の如くである

◆巨星墜つの感あり

國家政策に變動なからうが政黨政策には大事件である

公報未だし＝後繼內閣報と一緒か

…矢田總領事の談…

原首相暗殺事件に關し矢田總領事は語る『まだ當館には何んの公報も屆かぬが華盛頓には公報が屆いて居るらしいから今に ▼後から 公報に接するであらう、何時も公報が遲れるから或は後繼內閣顏觸れと一緒に公報が來るかも知れぬ、原首相の死は恰も巨星の落ちた感がある、公報を見ねば確定的のことは云へぬが余は今回の出來事に就て二つの問題を考へさせられる、先づ其一つは警視廳の取締と云ふことである ▼事情が 解らぬが其警戒に就て遺憾の點がありはしなかつたらうか、もつと何んとかならなかつたかと考へさせられる、其二は朝鮮人の此事を爲すに至つた目的が奈邊にあるか解するに苦しむ犯人は獨立黨關係者であるとあるが原首相を殺したからとて朝鮮獨立の爲め ▼一歩進 めるとは考へられぬ、斯る手段に依つて獨立し得ると云ふことは誤つた考へであるので、朝鮮合併の當局者を殺したと云ふのであれば意味が解らぬでもないが、その當局者でない否寧ろ朝鮮人の同情者であり同情ある施設を遣りつゝあつた人を殺すとは全く解せぬことである ▼武官を 文官に改めたり憲兵は巡査に代へたりした人である、一體その根本に於て暗殺は恥づべきことである、愛蘭が獨立でアンナに騒いでも英國首相に對し何等危害を及ぼしたことはない、又首相が愛蘭にも旅行したことがあつたが決して斯る野蠻的行爲はせなかつた全く暗殺と云ふことは ▼理由の ないことである、殺すよりは說いてよい方に導くことに意義がある、斯る野蠻行爲の爲め朝鮮人の同情者には非常な邪魔になる好意をもつた人には一大挫折であらう』

▼直ちに後繼者 御下命か

斯る場合首相代理は出來ぬ

『日本で首相で殺された前例がないので原首相が殺されて後の內閣はどうなるか一寸問題ではあるが ▼帝國憲法 法に依つて見ても內閣組織は或る一人に御下命あつて其人か中心となつて內閣を組織するのである、其內閣組織者が殺された場合、養子を外よりもつて來る譯には行かぬ、故に內閣員の先輩の或る一人に御下命がなければならぬ、首相の代理は出來ぬ、首相の地位は一日たりとも ▼空位に 置けぬことであるから直ちに元老會議を開いたことであらう、而して今頃は既に後繼者に御下命あつた頃だらうと信ぜる、後繼者が何人であるかは輕々しく揣摩憶測は出來ぬが華府會議の全權未決定で原首相自ら出馬するとの噂あつた際高橋藏相が代理するとの說があつた ▼事から 考へると或は高橋藏相邊に御下命あつて直ちに從來の閣員を以て新內閣を組織したも知れぬ、原首相が殺されても日本の政治外交殊に華府會議に對して別に變更されるやうなことはないと信ずる、併し政黨政策上には大事件であり政友會に取つては大打擊であらう獨り ▼政友會 に限らず斯る立派な首相を失つたことは日本帝國としても大損害である、政友會としては隨分摩擦ついて居ることであらうが或は今の政友會內から人物が現はれて來るかも知れぬ』

◆原敬氏の略歷

‖六十五歲の一生

原敬氏は巖手縣士族原恭氏の弟にして安政三年二月九日を以て生れ明治八年六月分家して一家を立つ夙に東京に出で佛語學を研修し次で司法省法律學校に學び報知新聞社に入り編輯に從事す後外務省通商局長朝鮮公使外務次官等の要職に歷任し去りて大阪每日新聞社長となる同三十三年星亨の後を承け遞信大臣に任ず後民間に下り立憲政友會に入り其總務委員と爲り同三十五年盛岡市より衆議院議員に推され引續き今日に及ぶ同三十九年一月西園寺內閣の組織に當り三度台閣に列し內務大臣となり鐵道院總裁を兼れ更に山本內閣に內務大臣となり大正三年四月職を辭し特に大臣禮遇を賜ふ爾來政友會總裁として輿望高く大隈內閣起りて其率ゆる政友會一旦悲境に陷りしも寺內內閣成り遂に多數黨を占め同六年六月臨時外交調查委員仰付られ同八年春現政友會內閣を組織せり今回兇刄に仆る享年六十五

◆原さんは 偉大な政治家

東洋汽船支店長 土井氏談

『內外の國事多端の際原首相が兇手の毒手に罹つて仆れたと云ふことは如何にも殘念です原さんは大政黨の首領である許りでなく日本の歷史中でも偉大な政治家だと思ひます殊に兇手が朝鮮人だと云ふので原さんが朝鮮人に恨まれる譯もないので一層氣の毒に思ひます』

◆日本の柱石

原さんの死と經濟界の影響

正金支店長 小島氏談

原さんの暗殺せられたことの經濟方面の影響を言へば世界の現狀は戰後の餘波が未だ收まらずして動搖してゐるので資本を有する國が安心して外國に資本を ▼投下す る所へ行かぬ現狀であるが華府會議の結果によつて世界の平和が確保さるゝ樣になれば自然世界の經濟狀態も安定し資本國も安心して放資する樣になり國際爲替の動搖も少くなると思ひます斯かる重大な會議を前にして日本の柱石である原さんを失つたことは非常に ▼殘念な ことです政治的方面でも一々將來の經綸までも近親の人に談つてゐた譯でもないでしやうから原さん一個の胸中に秘めてあつたことも澤山あつたらうと思はれて遺憾です

▼親切で光りある人 原さんの横死を悲しむ

ハーモンド氏は斯く語る

▼朝鮮問題の話も出た會見印象

『獨立は許さない』と云つた原さん

フェヤモント、ホテルに於て病氣保養中なる世界的名聲ある鑛山技師ハアモンド氏は原首相暗殺に就き『非常に悲しむべき事です』と ▼吊意を 表して本社記者に語る『私は恰度一ヶ月前に東京で原さんに會談したが非常に健康さうな光りのある人物といふ印象を得た、親切な人で私を過するに非常な禮を以てし腹藏なく種々會話されたが其時朝鮮問題の話も出て首相は朝鮮が獨立時代よりも日本の領土として統治された以來 ▼鮮人の 生活も敎育も財政も幸福になつたと云ひ氏は朝鮮獨立は許さないが其他の事は內地と同樣に改善してゆくと云ふ抱負を語りそれが朝鮮の幸福であると云つた、私も首相の云つた事を本當だと信じてゐる、私は朝鮮視察の爲め原さんから紹介狀や電報を打つて戴いたが ▼病氣の 爲め果さず歸米した次第だが原さんは華府會議に就ては世界平和の爲め必要なる會議だと言ひ軍縮の實行を力說してゐた、日本の名宰相が兇刄に仆れたのは日本國の大損失で私は個人として此人を喪つた事を非常に悲しむものである私は原さんの寫眞を貰つて來たが、之が思ひがけぬ記念品となつた』

機智縱橫

原氏の死は米國の損失

米人商業會議所會頭 アレキサンダー氏談

『日本の大政治家原敬氏に私が面會したのは去年の三月で東京の首相官邸で原氏主催の園遊會の時でした』と桑港商業會議所會頭アレキサンダー氏は昨日午後所內 ▼會頭室 で記者に語出した『原氏は堂々たる風采の男で會話は通譯を通して交換したが談話中に挿む縱橫の機智は氏の所有する頭腦を證するものであつて吾等は忘れ能はざる印象を受けたが原氏の死去は日本は勿論米國に取りても無量の損害である、私は原氏が一介の ▼低級官吏 より身を起して殆ど自分の力量で宰相の地位に登つた事及び氏が日本國及び日本政府の大黑柱でありし點等は私が滿腔の敬意を持つ所以であります、殊に氏がアウトルック誌上で發表した論文の一節『諸君は各國民の特性を承認し特質を尊敬せねばならぬ、各國民の特性及特質は其國民が各別に而も ▼共同的に 祖先より相續するものである、諸君は此各國々民の特性特質に於て人類共通の人道を發見しそれを基礎として世界主義を造らなければならぬ、世界的社會の造作の美觀と耐久力とは一樣同一の國家的資性よりも寧ろ雜樣混合の資性によりて初めて完成されるものである、而して此造作完成のために吾等は異れる ▼各國民の 有する相異れる天才に對して寬客と尊敬の精神を持たねばならぬ云々』は全然私の贊成する處である、私は衷心から原氏の死去を哀悼致します』と

◆原首相 國葬されん

首相の身で落命

首相の殺害されたることは我邦に前例なき處なるが原首相は暗殺され落命の瞬間まで內閣總理大臣たる譯なれば首相としての死は勿論國葬さるゝ譯にして元老會議にて是れ等のことも決定さるゝならんと

●春洋丸 昨朝火事

煙筒が燒け 直ちに鎭火した

昨朝九時頃當市第卅六波止場に繫留中の東洋汽船春洋丸機關部煙突より失火し大事に至らんとせしが海上陸上各消防夫驅付け鎭火せしめ ▼損害皆無 であつたが英字紙で船員を一日全部陸揚げ避難せしめたと大袈裟に報せられてゐた右に就き同船機關長京念屋滿三郎氏は語る『煙突修繕に白人職人が來てデー甲板機關部で遣つてアセチリン瓦斯で鐵板を剪つて居る際突き拔けて機關の油のふつた塵に火がついたのである、職人が大事と見るや直ちに出て非常を ▼消防署に 通報したので直ちに馳せ來り消し止めた大事に至らなかつたのは幸ひである』云々

●坂井財滿問題 圓滿に解決

三人の仲裁者に一任

坂井庫治氏が財滿孫次郎氏を相手取り二千八百弗請求の訴訟を提起係爭中なるは既報の如くなるが土地會社株券關係の本件を法廷に爭ふは不利なるを以て坂井氏は三人の仲裁者に一任することを提議し財滿氏之を承諾したるを以て右兩氏より各一人宛の仲裁者を選び其二人が第三者を選び三人の調停裁斷に對しては兩者とも絕對に服從することゝなり圓滿解決を見んと

●久能助教授 泥醉收監

一夜の後放免

加州大學助教授久能芳次郎氏は一昨日午後五時半頃桑港エルヴアカデロ街にて泥醉し居れる爲め治安妨害の廉にて拘引せられ同氏面識のバークレー警察署長交涉せしも効なく同日午後十時より市監獄に投ぜられ昨朝十一時頃放免せられたり

●八十八人の死亡者

昨年の桑港自動車で

華府國勢調查局は千九百二十年內の自動車のアクシデントにて死亡せる數九千百三人と一昨日發表してゐる之れを人口比例にすると十萬人に付いて十八人四分の割で千九百十九年には九人四分千九百十八年には九人一分と云ふ風に次第に增加してゐる、地方別にすれば紐育市が最高で昨年は七百七十三人次は市俄古で四百七十二人沿岸では羅府が百四十二人桑港は八十八人沙港が四十一人ポートランド三十四人王府が二十八人あつたと

●中川鈴木支配人ボ港轉任 神戶の鈴木商店は桑港ポートランド沙港に支店を有してゐるが最近ポートランドから材木小麥等の輸出が盛になり同店事業の中心がボ港に遷りたる爲め桑港支店長中川次郎氏はボ港支店を支配する爲め近日出發の由

●自働車法違反無罪 エッチ湯川なる同胞が先日賭博にて捕縛され市監獄に送られしとせしは誤報にて自動車法違反に問はれたるものなるが昨日是れが公判あり無罪の判決を受けたり

●大河原事務所擴張 桑港及び布哇に事務所を有する大河原法律事務所は大河原高塚兩氏の外新に本社記者明石順三氏及び五味保氏新に入り事務を執るべしと

●號外發行

本社は昨日午前十時原首相暗殺の號外を發行し市內及び灣東一部に配達したる外各地方支社は此報道を掲示したり

回原敬君の懷古（一）

鷲津生

▼日本帝國の首相原敬氏が鮮人の爲めに東京驛に暗殺されたるの報は天來の大音響の如く、私の耳を擊つた、此驚くべき飛報に接したる私は今更らの如く無常の理法に刺擊せられた。嗚呼此巨人は、故伊藤博文公と同じく鮮人の兇手に倒れて彼世の人となつた。

▼私が原氏の謦咳に接したのは今より十三年前、氏が第一次西園寺內閣の內務大臣たりし時で、明治四十一年十月であつた。此時私は桑港に放浪中の故齋藤修一郎氏の紹介によりて氏をフェアモントホテルに訪問した。

▼私は故なくして大官富豪を訪問することを好まない性質である。此訪問は實は老軀を擁して桑港に放浪せらるゝ齋藤翁の爲であつた。即ち齋藤翁の前途を原氏に謀るべく訪問したのであつた。同伴者には安孫子久太郎、黑石清作の兩氏があつた。

▼此時、原氏は一行は曾て倫敦に總領事たりし飯島龜太郎氏外二名であつた。

▼飯島氏の案內で、原氏のルームに導かれた、原氏は風邪の氣味なりとてバスロープを着てゐられた。先刻まで臥床中であつたのだ。

▼初對面の紹介が齋藤翁から述べられ、私等は輕く一禮した。此日雨あがりの寒冷が桑港を襲ふため、ストーブには石炭が焚かれてあつた。齋藤翁は私等を紹介して次室に退かれた。

▼原氏は其炯々たる眼光をしばしば私の面上に注がれた。併し柔和にして鷹揚なる態度は平生噂に聞いて原氏とは別人のやうに感ぜられた。

▼齋藤翁の前途に關しある事の依頼をした。原氏は私等が齋藤翁に對する同情に就き感謝の意を述べられ、其依頼に就いて快諾を與へられた。

▼隣室より齋藤翁は顏を出されて『モー噺しは濟んだかね』と言ひ乍らルームに入來り『オイ原黑ビールを呑まして吳れ』暫くしてルームには黑ビールが運ばれた（つゞく）

熟練なる植字一名 熟練なる文選二名（何れも高給を支拂ふ）右大至急入用に付希望者は御申込を乞ふ 日米新聞社

麴、味噌 並に新奈良漬 大賣出し 天麴味噌製造所 Kagidai Koji Co 1534 Post St., S. F.

●日本行切符とエビスホテル 一、二、三、等共何時にても御申込ください必ぞ良室を得ます迎妻子御出迎ひ●御方樣には特に親切叮嚀に御世話致します 1645 Buchanan St. S. F.

實用英語學校（千九百二年創立） Misses Coleman & Lloyd 2905 Bush St., Near Lyon St, S. F.

シンガーミシン

みとま 桑港ポスト街一八〇七 電話ウエスト七三六三 フィルモア一九八七

新發明 尺八 通信教授 ●蓄音機に吹込んで自由自在に ●詳細左記へ THE KASUMI KAI 1731 Buchanan St., S. F. Cal.

英語個人教授 ゲリー街一四〇八 ミセスカイル

あんま術開業 福岡盲啞學校按摩、鍼灸科卒業 スキデン、マッサーヂ修業 田守 桑港ゲリー街一五二一 日光旅館內 電話ウエスト四一七四

御祝御佛事用 長崎名產カステラ特製 御菓子司 花月堂 桑港ポスト街一六三二 電話ウエスト六八三二

移轉廣告 前フェヤモント病院長 ドクター・ブラウン フラッド・ビルヂング內ルーム七百七十番に移轉 電話ガーフイルド三四五八 診察時間 午後二時より午後五時迄 Dr. Robert Brown Flood Bldg. S. F.

DR. LIANG 1818½ Post St. San Francisco, Cal. 支那著名醫生 專醫久年內膓 咳嗽並に哮喘 男婦內外諸症 每日診察時間 午前十時より 午後七時迄

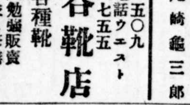
材料供給 寄宿隨意 巴裁縫女學院 1625 Buchanan St., S. F

元吉寫眞館 桑港フィルモア街二〇〇九中 （電話）店 ウエスト一〇五四 住 ウエスト五九三〇

診察（月、水、金曜 午後二時—四時迄）（前以て時間の約束を願度し） 帝國大學醫學士 福田洋洲 桑港市パイン街二〇六八 電話フィルモア五九二八

新開業 牛すき、御飯 いろは 桑港ラグナ街一五〇〇 電話架設中

讓受改稱廣告 私儀今般藝備旅館（トンネル口）を讓受け浪花ホテルと改稱內部一切を造作改築致し特に御客樣の御便利を計り浴室食堂を新設致し 無料入浴 御食事は實費にて御用命に應じ候間何卒御投宿の榮を賜り度願上候 敬白 桑港スタクトン街七三八 電話ガーフイルド二〇五九 浪花ホテル 館主 尾崎龜三郎


流行 斬新 谷靴店 ダリー街一五〇九 電話ウエスト八七五五 各種靴 大勉强販賣 並に修繕

最新刊書籍紹介
- 大澤米造 濱田榮子戀の哀史 一、二〇
- 福本日南 元祿快擧眞相錄 五、〇〇
- クロチエ 美の哲學 二、八〇
- 土田杏村 象徵の哲學 二、三〇
- 石川三四郎 古事記新研究 二、〇〇
- 田山花袋 海の上 一、七〇
- 宇野浩二 空しい春 一、七〇
- 加能作次郎 誘惑 一、八〇
- 黑岩涙香 破天荒 二、〇〇
- 同 人の運 二、〇〇
- 藤森政次郎 參考日本歷史 二、二〇
- 子安農園 乳牛の飼ひ方 二、七〇
- 宇田川孝童 琴古流尺八講義 二、〇〇
- 文部省纂 口語文用例集 二、六〇

株式會社 よろづ商店 1300-4th St., Sacramento, California

●日本御土產最適品は自轉車が第一● 最新式自轉車參拾五弗より六拾弗迄 中古モーターサイクル七拾五弗より二百弗迄 桑港ポスト街一八二四 電話ウエスト八三九六 輸出卸小賣 部谷自轉車商會

尋人廣告 去る七月十九日夜ターラック岩田商店より暴力を以て誘拐追放せられし同胞の氏名現住所を至急知りたし來る十一月二十九日モデスト市郡上等裁判にて暴徒の審問あり檢事は證人として被難同胞の出廷を望む證人出廷せざれば同胞は正當權利を放棄せしものと認めらるべし 在ターラック スタニスロース日本人會 P.O. Box 546, Turlock, Cal.

B 御祝、佛事用 御菓子司 並に卸小賣 勉强堂 桑港ゲリー街一五三三 電話ウエスト七五三七

水晶印形 甲州堂 1311 Eddy St., San Francisco, Cal.

飜譯◎通譯◎手紙代書◎集金◎保險其他 名醫紹介 東西社 原田惟一 ポスト街一八〇七 電ウエスト七三六三

●引延●進呈● 吉里寫眞館 桑港フィルモア街一四三七 電話ウエスト八六五〇

御菓子卸小賣 武田菓子製造所 弊店は日本波止場に最も近く御歸國者御渡米者の贈り物用餠菓子の製造をして居ります 桑港 サウスパーク一二八 電話カネー二八九七

男女服裁縫 ミシン刺繍 電話ウエスト八一八七 ブキヤナン街一七一九 楠

森山寫眞館 桑港サター街一七九七 電話ウエスト六一二一

原田寫眞館（ポスト、ゲリーの間） 桑港フィルモア街一六[illegible] 電話ウエスト[illegible]

小田運送店 ポスト街一七七六 電話フィルモア四六一

中山法律事務所 民刑訴訟鑑定及手續、法律書類作製、飜譯債權取立其他通譯事務一切 事務所電話 フィルモア二九一一 桑港ヴエブスター街一五六二 マスター、オブ、アーツ 法學士 中山壽益五郎

大河原法律事務所 T. Okawara, Hearst Building San Francisco, Tel. Sutter 3127 東海電話 ウエスト九三七一

シンガーミシン特價販賣 一日十仙 たやすく貸へます ◉ヘムステッチ……五仙ヤード 桑港ブキヤナン街一七一五 電話ウエスト四〇三七 太田商店

カ子正味噌糀

藤本商會 桑港スタクトン街一〇一四 電話カネ一二三九

醫科大學專門教授紹介並に通辯、大學病院入院及び大手術監督等遺憾なく懇切に取扱申候 桑港ブキヤナン街一六四四 電話フィルモア四六二 1644 Buchanan St., San Francisco, Calif. 門野普光

フレスノ（二）

第九回布日常議員會
▲重要事項の協議

既報の如くフレスノ日本人會第九回常議員會は本日午後三時より同會々議室に於て開催され當日の出席常議員は小山、岡島、北濱、富田、和氣、井原、中筋、星子、竹野、矢田、川瀬、内山、川崎、高田、高橋、有江、白川、河野、谷口、樽本、生田（二十三名）の諸氏にして着席するや幹事大野氏の事務及び會計に關する報告ありて後左の事項を協議する處ありたり

一、在日土地法關係委員會の通牒に依るフレスノ日會負擔額三千二百四十六弗也を承認す
二、ユーエスファーム會社後援寄附額を約千弗
三、日本語學園教科書編纂費四百二十五弗

以上三項合計四千六百七十一弗及び此れが募集費と豫備金二千弗を合し約七千弗は各常議員に於て各區域内の在住者より寄附を募集する事

右の豫算に對し各人の負擔は土地所有及借地農業家は其耕作地一英加に付き廿五仙宛とす市内實業家の負擔額は昨年度時局費募集當時の割當の半額とす

豫備金は日會時局費中に保管し時局の展開に伴ひ最善の方法を以て時局運動に備ふる事

各常議員に於て右金額募集は直ちに着手する事とし十一月十五日を募集〆切とす

常議員は寄附會募集の要する自動車使用代手當を支拂ふ事

右の協議を終へ北濱會長十二月五日の便船にて歸國につき日會より目錄を附し感謝狀を呈する事を決議し午後五時半閉會す

●最終支拂六百萬弗　昨日當地加州レーズン會社の發表する處に依れば來る十一月十五日より同二十日までに昨年度レーズンクラップ、タムソン、マスカット及サルタナ等に對する最終支拂をなす由なるが其の總額六百萬弗に達すべく其のプライスは

マスカット　一一、一五
タムソン　一四、七七
サルタナ　一二、一三

の割合にて支拂はるゝ筈なるが千九百十九年度に於ける總支拂高は三千六百三十四萬五千七十七弗九十四仙なりしも千九百二十年度總支拂高に就てはプラチ物等の調査を終らざれば未だ明かならざる可しと同會社のマードック氏は語られたり

●百濟氏來布　曾て當地に在りし百濟開敎使は本日桑港より來布二三日滯在の後櫻府に赴く可き由なるも近く講演の爲め再び來布す可しと

●大河原氏正式許可　當地大河原事務所の大河原辯護士は今回布市にも事務所を開く事となりたるが先日當市々役所より布市開業の正式許可を得たりと

●高校内にカフテリヤ　當地フレスノハイスクールにては一般生徒の便宜を計る爲め同校内にカフテリヤを設く可く準備成れりとの由

●藥劑師招聘　當地ツラレー街一五〇五の東京藥店にては今まで須市ミカド藥店に居りし藥劑師尾澤寧次氏招聘し近く來布を見る可しと

●來往　オレンヂコーブの苗木業者納野太氏は本日來布即日歸宅せり

羅アンゼルス（三日）

●船夫罷工に領事來る　羅港繫留諸威船乘組水夫廿九名はストライキを演じ船は寄港地より動く能はざ桑港より同國領事出張協停中なるが船夫は荷物滿載の爲め危險至極なれば出港せざと云ひ居れり

●郡檢事の咆哮　連日新聞種を供給しつゝある郡檢事ウルエンン氏は昨二日殺人事件にて法廷に在る時公私の敵手陪審官長エルメンドフ入り來れるを認め看守に向つて此男を注意せよ何を掴み去るかも知れんぞと怒鳴り上げると二回滿廷の視聽今にも大喧嘩が爆發するかと思ひしに陪審官は知らぬ顏をして去れりと

●ケネデー殺事件の三開展　市俄古より來りし刑事辯護士をして令名嘖々たるエアベスチン氏は二日公判開廷に先ち被告オベン女は六十一日目に裁判を受くる今日法律に依り無罪放免を要請すと述ぶるや流石の檢事も成程六十日間毎に豫審を行ふ規定あるより抗議も出來ず係判事は先づ來金曜日其當否を決すべく審議すべしと宣告せり

●佛國將軍來羅　目下華府滯在中の佛國凱旋將軍ホーチ氏一行は羅府市長ノライヤ氏の招待を受け當市觀光の爲め南下すべしと下院議員レインバガー氏より電報ありたり南加地方には佛系市民も多く湧くが如き歡迎を豫期せらる

●昨年當市自動車轢殺數　米國で自動車モーターバイスクールの爲め轢殺されたる數は九千百三人紐育の七百七十三人市俄古四百七十二人に對し當市は百四十二人なり

●郡監獄は充滿　當市郡監獄は昨夜四百六十八人滿員の有樣にて或者は床上に睡眠しつゝあり此上犯罪人生ずれば屋根にでも寢かす外なしとは滑稽

●犬賊に嚙み附き主人を救ふ　牛乳屋ジョンス某は昨二日サンセット街に配達に赴き車に乘らんとする處へ强盜現はれて大形シーツを頭から被掛け有金を掻拂はんとせしを車上のブル犬は奮迅して嚙み付く賊は悲鳴を擧げて逸走せる由

●日米銀行最終支拂　加州銀行監督官の發表に依れば一ケ月後に日米銀行預金最終支拂一割二分を割當支拂ふ由にて最終支拂高と既拂分を合すれば預送金者は總計四割六分を得るわけなり

●北加力士來る　來る五六兩日八重園裏手にて興行する南北合併大相撲の北加力士一行は三日十時着羅之れを停車場に迎へたるが定めて同日は羅府空前の大相撲を見るを得可く人氣頗る盛なり

●網島牧師講演會　同牧師の來羅を機とし羅府邦人協會は直に通牒し昨夜七時半ジョージヤ街美以敎會に聯合集會を開催同牧師の講演を聽きたりと

●長濱日會定期參事員會　同會は六日參事員會開催寄附金募集等の問題に就き協議する由

●フレッ賃輕減　エス・ピー・ユー・ピー及びソートレーキの三線は生産原料及び食糧品の大陸横斷運賃を平均三割節減する旨發表せるが中には五割に達するものあり即ち此輕減は鐵道從業者の賃金に影響を及ぼしたる次第にて運賃の輕減は原料及び食糧品の價格輕減となり生活費節減さるる旨發表せり

●佛敎會の講演　本願寺佛敎青年會は來六日聯日夕藤井整、米山墨村、京極開敎使を聘して講演會を開催する由

●南加小兒院稱贊さる　例年の如く市社會事業課員は過日同院に出張調査の結果請書を提出せるが市當局者は白人間資金潤澤なる同種事業と雖も斯の如き報告を得る能はずと贊辭を浹し本年七月一日より來年上半期までの許可證を下附したる由なるが近頃同胞同院存在の意義徹底しつゝあるは慶すべし

●米人寄附募集者に注意　土地法の爲め苦しめられ現狀を奇禍とし近頃奇怪の白人二名二九三八二〇の自動車を操縱して同胞農家に寄附を强請しつゝある樣子なれば取合ふ勿れ

●百萬弗の大火災　三日午後オレンヂ郡に於ける羅府製糖會社倉庫消失十七萬五千俵の砂糖價格一萬弗燒失せり

●中日會協商委員出桑　試訴の爲め中央日會協定委員藤岡、笹森、茅野三氏は明日出桑する由

●パサデナ總會講演會　パサデナ邦人ユニオン基敎々會に於て七日（月曜）夕獨立宣誓式並びに記念講演會開催の由にてヒンマン、ケンガット、フォクス三博士を初め廿餘名の組合派敎會知名の代表者列席壯嚴なる宣誓式を行ひ引續きフォックス博士長老敎派總理ストーヂ博士等の講演ある由なれば一般同胞の來會を切望すと

●東本願寺理事會　來る六日午後三時より開催引續き別院にて佐賀縣人會と合同にて小野清氏の送別會を催す由にて有志の贊同を希望すと

オークランド（四日）

庭園業組合集會
▲職業勞働組合の初會

王府の勞働會は六ケ年前に設立せられたれども捗々しき發達を遂げず先般評議を催し英斷を以て庭園業組合と稱する職業組合の組織に改めたるものなるが愈々來る六日の午後三時より王日會事務所にて集會を催し職業的技術の研究相互扶助の施設に就き相談する由速かに發達の上他の職業勞働組合にも範を示さんことを望む

●心靈講演會　灣東體育會の主催にて十年前當地尙武會の師範たりし安西秋水の心靈講演會を六日（日）午後二時より日本ホールにて開催す同氏は神田流劍舞の達人にて其後羅府に移り同地にて種々心靈術の實驗を演じ觀者を驚嘆せしめたるものなりと

●翁氏紐育着　華府に於ける軍縮會議へ向け本社の特派員として出發せる翁六溪氏は先日紐育に到着したる由當支社に私信ありたり

●相賀安太郎氏　布哇ホノルヽの邦字新聞日布時事に社長兼主筆たる相賀安太郎氏は華府の軍縮會議へ向け渡米一昨日着桑の所昨日午後より東王當支社上山の案内亞市の紐井一劍氏のドライブにて鈴木詢氏竹内三郎氏等附添へ灣東一帶の風光を賞したる上夕刻小島正金支店長の招宴に臨み八時コロンビヤ座にてマンテルのハムレットを見物し本日東上の筈

●王府日會臨時參事員會　三日夜王府日會臨時參事員會開催九名出席左の數項を評議せり

一、土地法試訴は在留同胞一般の休戚に係るを以て十二分の努力と應援とを期せども割當額過重なるを以て當局に說明を求め理由を明にする事
二、右に關し會長より土地法關係委員會に交涉する事
三、右寄附金募集委員は來る定期參事員會に於て推薦すると別に非會員に對する證明取扱の件は灣東幹事會の協定せる非會員に對する證明保證取扱ひに關する件を承認する事

●王府實業會役員會臨時集會　目下喧しき事件に關し會員各自の意見打合せの必要あり今四日夜同會事務所に於て集會を催す由

●橋高氏小宴　天長節の新劇を振付して成功せる橋高貞範氏は祝意と謝意とを兼ね昨夜新世界窪田氏宅に應援せる知人數氏を招き小宴を催せり

●安田氏歡迎會　六日（日）心靈講演會終了後美州樓に於て同氏の歡迎晩餐會を開く由

●葬儀　アービングトン大神甚三郎氏妻女まつ子の葬儀は三日午後二時より東十四街と第五街角ハンラハン葬儀社にて執行せしが會葬者多數なりし由

●寄附　王府ニコくく床草野安太郎氏は二男武出生祝として金五弗をユニオン洗濯會社木島傳次郎氏は歸國に就き金三弗を王日會へ寄附せりと

●雜貨店讓渡し　王府第七街一九六支那人兆昌所有の白人向グロサリー日本人に安價に讓渡しさ

サンマテオ（三日）

●新築祝　ベスカデロ農業家にサンマテオ日會ベスカデロ支部長吉藤寬氏及共同者竹田常次郎氏住宅既報の通り火炎の爲め全燒後新築中の處落成して一昨日兩氏よりベスカデロ在留者一般其他地方の知人招待して宴會を催され吉藤氏より挨拶ありて川口氏の祝辭、サンマテオ日會幹事安部氏の祝辭並に土地試訴問題に關する狀態、此後耕作者に對する意見、土地問題は一般在留民の死活問題なれば精心的及物質的の應援あらん事、日米人間の各自が親和を謀る事等に就て講話（有志の希望にてなす）ありて第二式川本氏の司會にて桑港の大都會にて求め難き正宗以上の水と山なす程の馳走せめて餘興に移り浪花節の大家東雲大浪氏の三味線にて政守、高田サンマテオ高橋商店主の三氏代りくの浪花節本職の大浪君も驚き入りたと云はん計りの顏附三氏共當日の大出來なり竹田氏の博多節には本場の者も引き下りた次第で近來になき盛大なる祝宴なりしと

●出產　ベスカデロ農業家須藤常四郎氏宅にて十月廿日長男常次分娩同農業家梶岡郡一氏宅は十月卅日五女アヤ子出產

●安部幹事出張　サンマテオ日會幹事安部氏は來る六日は入口調査の爲め地方へ出張の由

●搜索願　和歌山縣人丸井鶴松（四二）は大犯罪を爲して逃走せしに付モントレー日會より當地日會宛搜索方依賴し來りたりと

風邪には無上の良藥
誰でも風邪に罹りし時は卽効ある良藥を服し全治を希望せらるゝならんフォレー藥を服すれば咳も留り呼吸も容易になり安眠も出來る Mrs. Myron Hayden R. F. D. Clarksburg, Mass. の來狀には『フォレー藥は風邪藥の内で最良なる事を發見せり』到る所の藥店にて販賣す（五）

御禮廣告
故マツ子儀送葬の際は遠路態々御會葬被成下且多分の香奠を添ふし難有奉銘謝候早々拜趨御禮可申上筈の處乍畧儀以紙上御禮申上候
夫 大神甚三郎
長女 同 ヨシ子
次女 同 ツネ子
長男 同 松良
次男 同 勇
實兄 岡部又六
親戚 一同
友人 一同

御禮廣告
私儀過去廿五年間胃腸病に苦み居候處今回羅府ターナー街四二八服部ツタ子女史の抵抗療法に依り僅か十八日間にて忘れたる如く全快仕候之れ全く女史の揉療治法の優秀なる技能に依るものと爲じ感謝措く能はざる處茲に紙上を以て謝意を表し申候
羅府北サンピドロ街二二七 ベンター屋 白神毘佐次

告果物生產者
本會社は各種木製箱類の安價供給者にしてレーズンの出荷ドライ及ダリンフルーツの輸送に適し又野菜其他キャンタロープ類に必要なるホワクスツレー及ダレーツ等を州内各地遠近の別なく同本人諸君の需めに應ぞ
クロビスボックス會社
404 Bank of Italy Bldg., Fresno, Calif. Tel. 6052

貸し地 九百英加
但し分割して何英加でも貸します、リース五ケ年、水澤山、ベーカスフィルド附近にて停車場より二哩御望みの方は羅府東一街一一七半 松川まで御來談ありたし
▼排日土地法の懸念御無用

尋人廣告
村岡鐵一 當年十八歲
原籍山口縣玖珂郡麻里布村裝束
身長五尺一寸位、丸顏、物數言はず無口の方
右本年八月家出致し一家眷族心配致居候條本人の居所及び消息御存知の方は御一報被下度謝禮は先着順にて十分に可致候
加州サンオン市 サンベニト郡日本人會

メキシコ農園踏査團
行先 「シナロア」州「ロスモチス」の接續地
期日 十一月七日午後十二時四十五分羅府出發 十日間の豫定
團員 二十名
費用 實費旅費約百弗
賣出地 既開墾地灌漑設備完備 一英町百廿五弗一區四十英町 拂込最初一英町十弗
右希望者は急に左記へ申込被下度候
谷越、堀會社 105 E. 1st St., Los Angeles, Cal. Phone. 19730

南加州北加州力士合併大相撲
當る十一月五日（土曜）六日（日曜）正午より 於て元八重園裏（北サンピドロ街）開場
南加力士 辰嵐、朝汐、若柳、若港、小松風、荒岩、石狩川、灘、土州山、鎬城山、甲山、錠引、京ノ森、若惠比壽、秋ノ磯、浪ノ音、石狩嶽、小響、小天狗、熊ノ山、甲佐川、小錦、羽衣、若勇、小雀、日高川、千歲川、小千鳥、荒舟、響、浦錠、森戸崎、北海 外十數名 行司 福島
北加力士 紀ノ川、朝汐、走り舟、室戶崎、向ひ川、朝日山、小松風、三ケ森、吉野川、三保松、土佐ノ海、北海 外數名 行司 伊勢 勸進元 土山芳松
世話人 羅府東京俱樂部 外一同

吾々が市場を監視しますから安心して荷物を出して下さい
農家協同市場 王府第二街とフランクリン角 平井、池田

葡萄苗木大安賣
芝、入重樫二氏共同にてシャフター市に支店を設け二百萬以上の葡萄苗を販賣しつゝあり
K. Shiba P.O.B. 151 Cutler, Cal.

神奈川旅館 並にめしや
清潔にして美味
貸自動車
遠近に係はらず直ちに御用命に應ず
王府フランクリン街六二九 電話王府七一五 神奈川旅館（めしや）山寺

EYMANN-SUDERMAN Hardware Company
農家の必需品
▲ツラック、ツラクター
▲ポンプ、パイプ
▲モーター、エンジン
▲其他農具一切
御一報次第參上御相談致します
アイマンスドマン金物會社 フレスノ 布市J街七三四 電話四九一 住宅三二八五W 前田榮文
パーレア 濱尾勝之師 郵函一二六 電話二七

オキシヘーラー 酸素療器
福山オキシヘーラー發賣所 羅府北サンピドロ街百廿四番
K. Fukuyama 124 N. San Pedro St. Los Angeles, Calif.

篠原眼科院 107½ E. 1st St., L.A. Calif. Telephone 15745 Res. 65137
平田篤次
堀田產院
產婆 山崎シモ
自動車塗替所 松澤 塗替並にタブ製造及修繕 布市ジー街八一一 電話五九八

公認 東京藥店 Tokyo Drug 1505 Tulare St., Fresno, Cal.
特製強壯劑 一ヶ月分 二弗
特製胃腸丸 二弗
特製通經丸 七日分 三弗
特製つわり錠 三週分 二弗
▲布市ツラレ街一五〇五 ▲電話一二五六

新荷到着日本米及もち米賣出し 灣東商會 電話王府一二〇二 及王府七七九六

小川時計店
公認產婆
駒井寫眞館
橋本病院 婦人科、小兒科、内外科、耳鼻咽喉科、眼科、皮膚科
粲川健雄
美洲樓
矢幡富藏
犬飼猛
產院 武田富成
王府めし屋
重富寫眞館
羅府支社
モチタ原醫院
加藤齒科醫院
關山皮膚生殖器科醫院
深澤齒科醫院
南加日本病院 Tel. 15427. 605 Turner St., L.A.

中村事務所
須々木榮
小林診察所
唐木保藏
古澤醫院
岩田美術店 T. IWATA ARTSTORE 256 E. 1st St. Los Angeles, Calif.
自動車學校
布市支社
湖月堂
江田產院
大河原法律事務所 Fresno, Calif. Tel. 5614
養老保險 小野助四郎
溫泉
佐藤書店 Sato's Book Store 341½ E. First St., Los Angeles, Calif.
太平洋沿岸魚市場 Pacific Coast Fish Co. P. O. Box San Pedro, Calif.
セントラル魚市場 CENTRAL FISH CO. P. O. Box 516 San Pedro, Calif.

フレスノ病院 小此木病院
布市部谷書店 922 F St., Fresno, Cal.
ジョージ寫眞館
布市勸業銀行
三浦產院
倉谷滿子
藤森治療所
白山紀一
關直太郎
橋場醫院
M&T 家具店
松本兄弟書店 1535 Kern St., Fresno, Cal.
御菓子調進所 柏屋

サクラメント（四日）

●大學總長の黄禍說

但しビ紙の曲筆ならん

太平洋大學總長のターリー・ノール氏は昨日當市櫻府都ホテルに於て開かれたるロータリー倶樂部の晝餐會席上に於て『同倶樂部員の兒童教育事業に關し』と題せる講演中に白色人種の人口減少を嘆じ白人の兒童は將來世界の指導者たる覺悟を要すと對照として世界人口の三割五分を占め地球上領域の六分の一を領する黄色人種は現在世界人口の五割一分を有する白色人種を凌駕するの日は來らんと論斷し更に例證として世界大戰に處したる日本は其何れの國よりも僅なる努力と鮮微の流血を以て多大の利益を償ひ今や白人種怖るゝに足らずと嘲笑しつゝあり大いに黄禍を唱へたる由なり假令顯微鏡的大學なりと雖も總長の職にあるものが斯る無責任なる言辭を弄するとは驚くの外なきが例のビー紙の報道なれば餘程曲筆も交り居るなるべし

●休戰記念日と行列

▲日會にも參加を慫慂

來る十一月十一日は休戰記念日に相當するが故に當市の重なる會社、銀行及び商店は休業するに至るべきが當日は市中大行列あるべく休戰祝賀行列委員長たるゼー・アール・アレキサンダー氏より櫻府日本人會宛にて同胞の行列參加を慫慂し來れりと

●プラサ郡で幹事會

▲幹事諸公の講演あり

北加聯合日本人會の幹事會は來る九日の午後二時よりプラサ郡ニューキャッスルのプラサ郡日本人會事務所內に於て催す由なるが同夜は幹事會主催の大講演を催すべしと

●卑猥の繪畫販賣　チーコのテー福原氏は卑猥なる繪畫を白人小僧二名に賣却したりとの科にて訴へられたるが昨日豫審聽取ありチーコ日會幹事井上氏通譯として出廷したる由なり

●澁澤子爵より禮狀　軍縮會議へ華府へ赴く途次當市通過の澁澤子爵はオクラハマより自署の鄭重なる謝狀を當市日會へ寄せ見送り並に葡萄贈呈に對する感謝の意を表し來たれり

●保釋金流し　過日メリスビルにて自動車をイソス湖中に沒落し警官より救助されたるも代りに操縱不注意の廉にて拘引されし五十弗の保釋金を積みたる同地に農業を營むケー中村は出廷せず保釋金して事濟みとなる

●月次常議員會　當市の櫻府日本人會にては來る九日の午後八時より月次常議員會を開き試訴寄附金募集の件並に休戰日行列參加の件等を協議すべしと

●寄附と追悼會　フロリンの重野彥熊氏は義父悼追紀念の爲め同地美以教會に十弗を寄附し去る十月三十日教會內で追悼會を營みしと而は梶田氏よりも同教會に五弗寄附ありしと

●歸國　ローハウスにて農業を營む廣島縣人森小次郎氏は來る七日の春洋丸便にて一時歸國

スタクトン（三日）

●故竹葉禎吉氏　一週年記念

▲追悼の誠意溢堂

豫報の如く今晩六時より湍ぞし亭に晩餐會あり終て七時半より米人救世軍ホールに於て故人の一週年追悼紀念會あり須市日本人會の井上理事司會し上田京野順八郎氏の報告、上田會幹事の電報及び吊文朗讀、日米支同志會代表平野周平、新世界支社代表及川八樓、救世軍代表尾崎宗一、基督教會代表秦庄吉河下日會代表遠藤學人、河下基督教會代表今井牧師、有志代表小村峰太郎、櫻府平原日會代表角田全一、在米日會代表瀧本書記長等の追悼の辭あり十一時散會來會者約百名盛會なりき

●人名辭典締切

は本社廣告の如く來十五日です市內は勿論各方面とも幸ひに購讀者諸君の御援助により頗る好成績であります餘日も無い事ですから河下、樓臺、ハイランド各地の諸君は此際至急申込み下さい

●赤羽氏敷地建物購入　當市南センター街とラフエットの角にあるホテルやグロサリ等のある大ビルデングは日本人のコーポレーションなるラフエット・インヴエストメント會社の所有に屬し日本人所有の建物中當市で最大のものであるが今度赤羽商店主赤羽亥之助氏が七万五千弗で讓受け昨日當市裁判所で一切の手續を濟したさうである

●送別會　當市薩摩屋主人小牟禮定氏及び本坊金兵衛、新屋辰之助、藤井庄一郎氏等何れも來七日の春洋丸にて歸國に付知人は去卅一日廣東樓に諸氏を招き送別晩餐會を催せりと

●內田醫師退院　盲腸を患ひダメロン病院に入院治療中なりし內田ドクターは數日にして全快し去卅一日退院今月一日より從前通り患者の診察をなし居る由

●宮田氏歸國　メッドフォード三番の農業家高知縣人宮田淺吉氏は來七日の春洋丸便にて一時歸國すべしと

●來住　櫻府の角田全一氏、ウ村の遠藤日幹、今井牧師、在日の瀧本書記長何れも竹葉氏追悼會に出席の爲め來須

●新講談は五日より　南慶一行の新講談は豫報の如く來五日より三晩朝日座で開演す

●佛教會記事　市內鶴屋菓子店にては天長節に際し須市兒童寄宿舍百五十名の全生徒に寄贈せり▲市內薩摩屋小牟禮定氏は妻子同伴歸國紀念として金十弗を▲鹿兒島縣藤井庄一郎氏同じく歸國紀念として金五弗を何れも學園に寄附せりと

ワツソンビル（三日）

●赤十字社員募集　米國赤十字社華村支部は來る十一日休戰紀念日を期して一擧に其社員を募集する事に決定し既に其委員の選定も終り目下其活動準備中なり日本人部よりは澤井幹事委員に擧げられたり

●自轉車泥棒　ジョセフ・モーラルといふ男はグリンバレーの西村氏の自轉車價格六十弗ばかりのものを盜みサンノゼ市に持ち行き賣り飛さんとして發見され官憲によりて當市に連れ戻され今朝ポリスコートにて裁判あるべし

●日本より尋ね人　岡山縣後月郡出部村大字上出部の猪木麒三右工門なる人は明治三十九年七月渡米大正二年七月オレゴンのポートランド市より最後の通信を日本にしたるのみにて其後行衛不明の由若し其消息を知り居る人あらば通知ありたしと故國の妻女キャンより當日本人會に依賴し來れり

●佛教會記事　來る六日午後二時より佛教會堂に於て「佛教と軍縮會議」と題する日曜說教あり▲中原勘七鈴木孫一の兩氏は歸國紀念として佛教會に金五弗宛を寄附したり

ベカスフィルド（三日）

●パソナル　支社■本日歸宅の豫定

●小供死去　山口縣人松田勝江氏の長男勝臣（三歲）は先月廿五六日頃より腸胃熱を發したる爲めに當市のシスター病院に入院中なりしが遂に三日午前二時死亡したるが葬式は來る五日午後二時佛教會に於て營む由因みに遺骸は布市に送り火葬に附する由なり

●歸國者二件　廣島縣人片山柳吉氏の家族山口縣人松田勝江氏の妻女次男を連れ歸國さるゝ由

●日會當議員會　は來る五日午後八時より同會事務所に於て開催さるゝ筈なりと

●種痘　吉村ドクターは來る六日午後二時より當市佛教會に於て同胞の兒童に種痘を行れると

サリナス（三日）

●移轉　山口縣人山本三平氏は今度エヌ・オー街の間の藤眞和市氏の表に移轉

●寄附　ワスコの農業家岩田銀一氏方男子分娩の記念として日會へ金五弗寄附

●郡監獄の丸井鶴吉

モントレーの新谷夫妻を殺害したる丸井鶴吉は一昨夕當市郡監獄に收容せられたれば記者は彼れを訪問せんと昨日ヒリフ事務所を訪ひ面會を求めたるがネスビットヒリフは君とは昵近の間柄なれば直に面會を許可する譯なれど事重大犯なると語り官の許可なくては自分の獨斷には行かずとてモントレーの保官に長距離の電話で問合せた處が明朝十時に余の面前にて面會を許可すとの約束をなし本朝同時刻にセリフ事務所を訪ひモ市の保官及び警視オーカア氏の面前にて丸井鶴吉と語るを得たり彼れは今や覺語を定め極めて落ち付いたと語つたが兇行の原因は單にパンツのみではない之れ程の事をするのは一朝一夕の事ではないと漏したが果して事實であるか疑しい三十八番形のシエール五十發入りは二十四發の殘りが有つたが其の二十六發の行衛に就て保官は尋問したが不得要領で有つた何か入用の物はないか尋ねたら菓が欲しとの事で後刻送る事と再會を約し辭した

●野球軍遠征　サリナス日本人體育倶樂部は來る六日ワツソンビルに遠征し同胞軍と試合をなすべし

ニユウキヤツスル（二日）

●役員會　來る六日日曜日午後三時より日會事務所に於て更に役員會を開き時局に關連する重要問題を討議する筈なりと云ふ

●移動　リース期に際して移動は雜多であつた州法を云々さして手の下せぬものもあり暫時從來の行き懸りからデーオークで雲行の分るまで其の土地に執着して居る者もある今の際これが賢明なる方法だと思はれる併し最近新たに農園入りした人々に後藤和夫氏コロビアンチ百八十英加野村得一氏のセントラル果物會社園の百十五英加其他沖常次郎氏の六十英加山本氏の廿英加等の數件あり

長谷川十次郎
小森三次郎　ネバダ州
右の人住所知りたし　日米新聞社

鈴木南慶　新講談　御名殘興行
（初日）野狐三次　南山血染の軍旗　片岡大將の苦學時代　三七吉　南慶
（二日目）野狐三次　無人島の決闘　西園寺公と中江兆民　三七吉
來る五、六兩日午後七時須市朝日座に於て
請元　菅田
世話人　須市倶樂部　外　有志一同

預金利率廣告
●在外者小口當座預金　利息　年五分二厘
本預金は在外各位の爲めに特に設けたる御便利なる預金にして左の通り特長利益有之候
（一）出し入れ共通帳に依り五ヶ年間は書替の必要無之候
（二）利率は定期預金公定利率と同じ割合にて而も定期預金利息には百分ノ五の所得税を課せられ候得共本預金利息には毫も課税無之候
（三）利息は年二回計算の上元金に組入れ可申候
御預入は銀行又は郵便爲替にて御送附被下度候取扱店は當行廣島、下關、門司、神戶、福岡の各店に御座候
●定期預金　利息六ヶ月以上　年五分二厘
本支店出張所所在地　東京本店、日本橋（東京市）小樽、名古屋、京都、廣島、門司　橫濱、神戶、下關、福岡、大阪、大阪（大阪市）中之島（大阪市）　川口（大阪市）若松、長崎、上海（支那）
株式會社　三井銀行

保險附種子
▲アニオン▲ペツパリ▲トメト▲スピニツチ▲レタス▲キヤベーヂ▲セロリ▲キヤロツト
其他何でもあります
遠方の方はチヤツキ又はユーゼンカツセで御注文下さいC.O.D.でも送り升
加州サンノゼ　北澤商會
KITAZAWA BROS
197 Jackson St., San Jose, Cal.

パワー　強壯妙藥　二週間分　一弗五十仙
早く此の新神藥を用ゐて
神經衰弱や不愉快病を治せ
男女健康恢復精力增進を圖れ
胃腸病消化不良を治せ
便通を良くし食慾增進を謀れ
頭痛のぼせ目まひを去れ
血を殖し肉を增し健康体となれ
成功第一活動の源動力を作れ
公認通信一手販賣　桑港　鈴木事務所
K. S. SUZUKI'S OFFICE
1731 Buchanan St., S. F. Calif.

葬儀社

私事先頃から櫻府佛教會近くにアンダーテーカー業を始めましたに付きましては仕事の上等と親切丁寧迅速安價を旨とし業務に勉勵しますから何卒御引立を願ひます
サクラメント市オー街五〇六
モーリス、エス、ダゲット
Morris S. Daggett
電話メーン二一七六

松野齒科醫院　櫻府日本銀行二階　住宅第四街一二〇四　電話メインJ五一七〇

びんず　賣買　櫻府エル街三百十五番　電話メーン四八三三　平野仁三郎

貸自動車　竹本藥店內　櫻府第三街一一二三　川崎　電話メーン五二四七W▲五一一二六R

米問屋　井上商會
新米　大賣出し　▼大勉強▲
櫻府エム街三百十二　電話メーン三八一七

●見落す勿れ●　浪花節活動寫眞
最新フイルム各種　新渡米　浪花節
出演辯士　早川江戸っ子　辻岡風波
日取　十一月二日三日　フロリン　十一月六日七日　サンオン　十二日十三日　サリナス　十五日十六日　モントレー　十九日廿日　ワツソンビル
桑港グリー街一五〇五　電話ウエスト八七六八
加州公認　桑港興行會社　支配人　奥定吉

◉在留同胞を背景とし脚色せる移民劇
◉羅府帝國領事館　南加日本人會の問題となりしフイルム　羅府白鳩フイルム會社撮映
移民劇　日かげの生命
外に◉新派悲劇　裾野　小林蹴月氏傑作（全十二卷二日間續き物）　全五卷
興行日取　十一月二、三日　オークランド　五日、六日　桑港
加州公認　須市興行會社　活動寫眞巡業部
須市南センター街三八　電話二六七六W

新古家具賣買　株式會社　オーケー家具商會　櫻府エル街四二四　電話メーン四六七〇

須市ホテル　室內清潔　玉臺の設備あり　東マーケツト街一二四　電話七三一　川邊順

ライオン藥店
御好みの醫者を照會し處方調劑及び入退院の御世話醫者との諸交渉急を要する場合は何時なりとも御便利を計り詳細なる通信に限り百發百中の藥剤を調劑するは勿論專ら薄利多賣を旨として營業して居ります
1217 4th St., Sacramento, Calif. Tel. Main 1566 or 4618-R

櫻府第四街とエル街角　株式會社日本銀行　電話メーン一〇七八
和洋雜貨、金物類　紀伊商店　エム街三〇〇　電話メーン七七一
下島寫眞館
吉田寫眞館
サクラ藥店
崎山商店　電話メーン三九八
みかど魚店
保險　末本
櫻商都魚店
日本寫眞館
黑河寫眞館
佐藤齒科醫院　齒科醫學士　佐藤廣吉
有明商會
朝日時計店
櫻府旅館業　備州ホテル　大北館　川村旅館　西村旅館　日本館　日の本旅館　岡山旅館　大島屋旅館　陽明館
貸自動車　櫻府第四街一四〇〇　電話メーン五四七二J　加藤榮
イーグル藥店
糀製造並に雜貨販賣　渡邊商店

大和家具商會　櫻府エル街四一二　電話メイン五八三七W
保險　武田正夫
公認醫　唐津德光　櫻府エム街二百二十八番　電話メーン二〇一一
切花寫眞店　丸三
保險　河本源吉　1309 4th St. Sacramento　電話メーン四〇三八M
公認醫　宮崎醫院　櫻府第四街千三百十一　電話メーン八九七
佐藤靴店
高橋事務所　櫻府第四街一二一〇　住宅エル街三二七
加州公認　吉永醫院　ドクトル　吉永端三　櫻府第四街一四〇一（エヌ街と第四街の角）電話メーン五七〇九
柴太郎　櫻府第四街一三一八
吉村商店　和食料品　櫻府エム街四〇一　電話メーン一二三七
加州公認　石井醫院　東京帝國大學醫學士　石井銀佐　櫻府第三街一一二七
靴　櫻府角屋　津田商店
岩本齒科醫院　櫻府エム街三二〇　備州館內　電話メーン五四六五W
生命　片岡貫一
加州公認　春木醫院　ドクトル　メヂシン　春木柳平　櫻府エム街六〇八
櫻府公認產院（いろは順）　岩井きよ　蟹江嶋子　山浦なつ子　小林ひろ子　宮崎あひ子
和洋食料　雜貨卸小賣　谷本商店　櫻府第四街一一二五

早石醫院　J. Hayaishi, M.D.　44 S. El Dorado St., Stockton, Cal.　加州公認內外科醫　ドクトル　メヂシン　早石實藏
タフトホテル　御來市の節は是非御投宿を願ます　室內清潔、設備完全　スタクトン市南センター街一二四（電話三六四〇）　麻生德三郎
高等貸間　公認　錦帶堂藥舖
いなか商店　食料品　物產
隆辻便利社
廣島商店
ニユウ　フイシ　マーケツト
木村シンガーミシン店
高橋商店　糀　食料品　雜貨商　スタクトン　333 S. Center St. Stockton.
東西商會　吳服雜貨及食料品
日本鳥屋
小田醫院　公認　40 Sausal St. Salinas　電話サリナス六九五
須市支社
江頭豆腐店
石川醫院　加州公認　ドクトル　石川榮助
竹本魚店
內田醫院　加州公認　▼內科▲外科▲小兒科▲泌尿科▲眼科　ドクトル　內田貫助
工藤齒科醫院　工藤盛勝
國井時計店　金銀寶石、時計修繕　質店　46 E. Washington St., Stockton, Calif.
須市旅館業組合　日本旅館　バナマ　豊明館　愛知旅館　加州館　ヨセミテ　中島　南海屋　福岡屋　安藝旅館　サツマ　紀州館　ミカド　廣島屋　肥後屋

秋本耕介　ドクトル　外科　泌尿科　耳鼻咽喉科　105 East Main St., Stockton, Cal.　Tels. Office 3307w Res. 4933w
北原產院　公認　須市南センター街一三一七　電話一一九一W
公認產婆　西岡ハルヨ
公認產婆　久世產婆
公認　岡本醫院
公認產婆　大塚產院
和洋食料品　津玉商店　301 S. Center St., Stockton, Calif.　電話八七
西村產院
花屋　加州花店
支那料理　安樂心
ホワイトホテル
金物・STOVE・厨具　THE RUHL-GOODELL CO.　315-319 E. Weber Ave., Stockton
ローダイ　商店　20 N. Main St., Lodi, Calif.
ヴァレー材木店　Valley Lumber Co.
廣島屋
中國商會
華村　バーラント葬儀社　Burland Undertaking Co.
佐市
木村保險事務所　ニューヨーク生命保險會社代理　サンノゼ市北第三街五五六

The Dawn of a New Diplomacy.

WITHOUT A DOUBT the fundamental principle of the diplomacy that will obtain at the Washington conference will be truthful, sincere and open to free discussion, said The Japanese American News in Japanese on Thursday.

Heretofore, without exception, every international conference has looked like an arena, in the center of which was the conference table, and around that table raged greedy diplomatic battles. For every country party to the conference tried with might and main to secure first of all its own particular selfish interest. Around the conference table the diplomatists tried every known trick and device in the effort to get the better of others, of some opponent country. Those who succeeded in getting what they wanted were declared to have achieved a triumph of diplomacy.

Certain changes have occurred in the minds of men. Civilization has reached a higher plane. Today the old style of diplomacy is in disrepute. At this moment, when the sole purpose of the Washington conference is to advance the welfare and happiness of mankind, it is doubly necessary to make sure that the old type of diplomacy shall not obtain.

Active participants will be Lloyd George, a very genius of diplomacy, and Arthur Balfour, also skilled, representing Great Britain. Briand, towering among the politicians of Europe, will represent the French republic. There are those who are convinced that England will wrest an overwhelming victory from the amateur diplomats of the United States and the Japanese delegates, composing aristocrats mixed with bureaucrats and militarists.

Such a prediction of the outcome of the conference is inspired by ignorance of the nature and soul of the undertaking. It is an anachronism.

The conference will not in any sense be a poker game. Every representative must lay his cards on the table. There will be no need for concealing anything up the sleeve or changing a hand between deals. Nor will there be any place for bluffing. The main duty of the conference will be to see that every man plays his hand fairly and that whatever changes may be rung in shall operate to harmonize the interests of every country sitting around the table, shall promote a better international entente cordiale which ultimately shall lead to the goal of world peace. For that reason there is no reason for Lloyd George, Balfour or Briand to exercise diplomatic cunning to win any particular favor. Nor have we any reason to fear that they will compromise the interests of the United States or Japan.

We do hope, however, that the delegates of all the nations participating will uphold justice and truth, and with rectitude and fortitude lay the cards of their mission upon the conference table. There could be no hope for a solution of the problem of armament limitation if they palmed their hands and devoted themselves to discovering what was in the hands of their neighbors.

To insure against failure and to accomplish the purpose of the conference, it is necessary that all delegates shall renounce jealousies, refrain from holding their neighbors in suspicion. They must foster a spirit of mutual trust and confidence and thus make it possible to present their propositions. Having this in mind, we expect much of the keynote speech to be made by Secretary Hughes at the opening of the conference. We believe this speech will not be a formal utterance of the old style of diplomacy, but one which will cement a feeling of mutual trust and confidence in the minds of all the delegates and inspire them to enter into the conference with pleasure and with high hopes.

We trust that the United States delegates will reveal at once whatever proposition they have to submit. For, being the instigator of this great conference, the United States is in duty bound to show by its example a truthful, sincere and open attitude toward the conference, without which proper progress of the discussion would be impossible. And we hope that, following the example of the American delegates, the Japanese delegation will submit their proposition and invite the opinions of the world.

The ultimate success or failure of the conference depends on whether the delegates of the various nations concerned succeed in gaining one another's trust and confidence. It is the first duty of the United States to show a spirit that will inspire trust and confidence. The Japanese must not be slackers in this regard. On this achievement depends Japan's future status, as well as the value of the Harding administration. Having the success of the conference at heart, we sincerely hope that both Japan and the United States will endeavor to bring forth a new diplomacy, based upon truth, sincerity and openness. The world is looking toward the dawn of such international dealings.

Two Ways of Limitation of Armament.

The following is a liberal translation of an editorial in Japanese published in this newspaper last Wednesday:

WHETHER IT IS POSSIBLE to prevent future wars by limiting armaments is a big question. Take from a man a dagger or a gun, he still will have the right and chance to fight with his bare fists. In the case of nations it works out about the same way. The result of any limitation of armament will never be as simple and as smooth as humanitarians imagine.

What is meant by a purely defensive navy? Is there any way of checking the naval supremacy of a country? Isn't it necessary to maintain a superiority over the open sea, if only for defensive purposes? What is the relation between the resources of a nation and its armament?

All these questions call for careful study and discussion. We sincerely hope the coming Washington conference will lead to a full understanding by and between the nations. Every Japanese should ponder not only the diplomatic fruit that would spring from limitation of armaments, but also they must consider what would be the effect of such limitation of armament upon internal policies. They must spur on and back up our diplomats, officers of the army and navy, and in particular our delegates to the Washington conference.

We know without being told by our financial experts that any extension of armament will add burdens too great for the people to bear. Undoubtedly our army and navy experts clearly understand the situation. The navy, considering its relation to the national finances, is the more important of the two armed branches of government for our consideration. We have seen our naval expenditures swell beyond all bounds. Japan is expending about thirty per cent of her total income upon completion of the "eight-eight" addition to the navy, a plan adopted several years ago. Facing such a situation, our government naturally is very anxious for the future and is endeavoring by all means possible to reach a full understanding with the powers as to naval limitations.

The good effect of the limitation of armament will be reflected not only in the nation's finances but will also have a salutary effect upon the daily lives of the people. In any comparison, the latter effect is the more important. Limitation of armament will banish militaristic thoughts from the minds of the Japanese. Or, if it does not go that far, it will at least lessen militaristic impulses. This is a point the statesmen must note and bear in mind. Our navy officials in particular should give this deep consideration.

Japan's militaristic ideas are fed more with thoughts of a great army than a great navy. At the Washington conference will they discuss limitation of our army? This is questioned by many. Such discussion may be impossible, for the reason that the main problem to be taken up at the conference is a curbing of the race to build more and greater ships. The great navies maintained by Japan and America are a constant menace to one another, and the main gesture will be to limit both navies. Japan's great army, on the other hand, is not a menace to America. This is understood by the American people and their statesmen do not look upon the army as an important issue.

According to our information, Japanese army officials are cognizant of this situation and insist upon maintaining the army at its present strength. If this is true, we regret deeply that our army officials have not sufficient magnanimity to disclose what is transpiring. There is no doubt that our army officials are, consciously and unconsciously, inspiring militaristic ideals in Japan. While Japan at present has not even an imaginary foe, they maintain one of the greatest armies in the world. Khaki clad men and officers are conspicuous throughout the empire. This condition is the greatest obstacle standing in the way of weaning Japanese from militarism.

This is our observation and it leads us to realize that the Washington conference cannot accomplish much in the way of bringing about psychological changes in the Japanese. But the condition we find prevailing in Japan does not necessarily call for exertion of the influence of the Washington conference. The people gradually but surely will demand a reduction of the army.

Suppose our naval delegates to the conference were to take up the banner of armament limitation and fulfill our people's desire in gaining naval reduction. Could we not then expect our army to follow the example of the navy and reduce also?

Having these thoughts in mind, we sincerely hope the naval delegates will have sufficient self-respect to take drastic action.

ESSAY CONTEST WINNERS

COINCIDENT with the opening of the conference on disarmament in Washington one week from today, The Japanese American News will announce the winners of its prize essay contest.

The editors of The Japanese American News are finding it no simple task to pick the best four essays from the many submitted from all over the United States, from here in San Francisco to New York.

Many and interesting are the views expressed in the various essays. The great majority of the writers argue for international disarmament, but some few argue that it is but an idle dream.

Disarmament is uppermost in the thoughts of the world powers today, and you will find a timely interest in every line of the prize essays.

WILL IT BE WAR?

By MOTOSADA ZUMOTO.

An address delivered before the World's Press Congress at Honolulu.

IT WAS A HAPPY THOUGHT that suggested this charming city of Honolulu in the midst of the Pacific as the meeting place for the World's Press Congress at a time when the problems of the Pacific happen to engage the attention of thoughtful men in all parts of the globe. These problems, to be soon discussed at Washington by the official representatives of the principal powers interested, will doubtless receive much attention at the meetings of this Congress. And in this discussion, with your permission, I wish to take a humble share.

The question now before the world in regard to the Pacific is whether or not this beautiful expanse of water will be the scene of warlike strife. To put it plainly, the question is whether Japan and the United States will fight or whether they will settle all the outstanding troubles between them in a friendly way, as all international questions ought to be.

I make haste to tell you my firm conviction that all the trouble now existing or that may hereafter arise between Japan and the United States can be and will be settled in a peaceful manner, and that the two nations, in spite of occasional complications and keen rivalry in many fields of activity, will ever remain friends and at peace with each other.

I am aware that there are men of eminence and even intelligence who are inclined to take a gloomy view of the situation. But it seems to me that their forecast of the coming history is based upon certain fundamental misconceptions.

I shall try to examine briefly some of these misconceptions.

ANTAGONISM OF CULTURE.

In the first place, there are those who think that an armed conflict is inevitable between Japan and America as respective vanguards of two antagonistic civilizations. It has to be admitted that when two civilizations expressing temperaments and moods so different from each other as the civilizations of the Orient and Occident come into contact, the shock is bound to be mutually unpleasant and disconcerting. The impact necessarily engenders heat which, unless it is handled with utmost care and patience, may result in conflagrations unparalleled in the dark history of human wrongs and sufferings.

When Commodore Perry forcibly knocked at the unwilling doors of secluded Japan some seventy years ago, he little thought that he was in truth opening a floodgate of endless trouble and tribulation to the world of the West in general and to his own country in particular. I do not mean in any way to blame either the gallant American officer or the government that sent him. He only performed a task which in the irresistible march of human affairs some one had to tackle sooner or later. And to his credit, it must be said that he accomplished his painful work with so much skill and judgment that he is now remembered by the Japanese people as one of their greatest benefactors.

So long as the contact between the East and West remained limited and occasional, there was of course little danger of a serious clash. But the outlook essentially changed when the East demonstrated its ability to hold its own against the West in all fields of activity, in war and in peace. The Japanese victories at Mukden and in the Sea of Japan announced to the astonished world the opening of a new era in the history of relations between East and West. The process of mental and moral readjustment the West has to go through in its relations and attitude toward the East will be extremely painful, and it is therefore easily conceivable that this process will not be free from complications and even crises threatening grave catastrophes.

AN HISTORIC PROBLEM.

While not unaware of the pitfalls and dangers ahead of us in this direction, I feel sure that this problem of cultural collision will not lead to warlike complications in so far at least as it concerns Japan and the United States. The question of cultural antagonism is one that cannot be settled by official conventions. It is a permanent problem of history, and we Orientals are ready to take a philosophic view of the matter. We will certainly not hesitate to call attention, sometimes in a loud voice, to the Occident's failure or unwillingness to meet our just demands for fair treatment when such failure on its part is considered to be incompatible with our honor or our vital interests. But we are not in any haste to press the point, trusting to the ultimate mending of evil ways on the part of the West.

This philosophic attitude of mind on the part of the East is illustrated in a striking manner by Japan's handling of the California question. Deeply as we feel the affront which the state of California, by its frankly discriminatory legislation against our nationals lawfully admitted there, and in other ways, persistently offers to our national amour propre, there are few sane-minded men among us who even dream of the possibility of war in connection with the problem of California. While in no way relaxing our efforts to settle this trouble in a manner satisfactory to both sides, we at the same time realize the peculiar difficulties lying in the way of such solution. We are, consequently, prepared to possess our soul in patience and trust to the potent power of time in solving all difficulties.

CONTINUED NEXT SATURDAY.

CONFUCIANISMS.

THE MASTER said: "Where the solid qualities are in excess of accomplishments, we have rusticity; where the accomplishments are in excess of the solid qualities, we have the manners of a clerk. When the accomplishments and solid qualities are equally blended, we then have the man of complete virtue."

* * *

THE CHIEF of the Ke family sent to ask Min Tsze-k'een to be governor of Pe. Min Tsze-k'een said: "Decline the offer for me politely. If anyone come again to me with a second invitation, I shall be obliged to go and live on the banks of the Wan."

KATSUGORO'S REVENGE.

(From The Hakone Reigen Izari Kataki-uchi.)

By CHIKAMATSU TOKUZO.

(Continued from last Saturday.)

SENSING THE SITUATION, Tokuyemon begged the governor not to be so harsh with the girl. Mizoguchi only shrugged his shoulders and said:

"Never in this world shall I pardon her. The moment she caught sight of me she was smitten and began making desperate love to me. Indignantly I rejected her, repelled by her disgusting appearance. She was offended, and, seizing my arm, she roughly threw me to the ground. Forgive such violence as this? It would be false to my dignity and position as *daikwan* to do so."

"He is lying!" Hatsuhana cried. "The governor made shameful proposals to me. I did nothing."

"Silence, girl!" Tokuyemon cried. "I know everything that has happened. The best thing for you to do is to apologize at once to his honor. It is a terrible disgrace, Sir Mizoguchi, for a *samurai* to be thrown to the ground by a beggar woman. If I may be so bold as to offer a suggestion, I think, if I were you, I would forgive this woman and depart hence at once."

The governor, a silly old fool, who had not the wit to see the two meanings in Tokuyemon's words, seemed mollified.

"Well, well, her rudeness sprang from her love for me, I suppose. I probably should be more inclined to pity than to punish her. Tokuyemon, my friend, I turn her over to you. You have a good head. Advise this poor young woman never to show such rudeness again to one in my high authority. Ho, hum! I suppose when one is as handsome as I, one often is apt to be embarrassed by the importunities of the fair sex. How now, wench? You should not fall in love with every pretty man who passes your hovel."

HATSUHANA ESCAPES.

The governor strutted away. Tokuyemon palmed a smile. He turned to Hatsuhana and took her hands.

"My dear, I saw how matters lay at once, but it is folly, it is madness—it's worse than that, it's asinine—to question a *daikwan*. So, you see how it was? I succeeded in getting him to leave you to me. Oh, you shall be severely punished!"

The kindly old man tried to scowl, but Hatsuhana saw the smile lurking behind the grimace. She pressed the old man's hands, thanking him, with a perfect torrent of words, for his kindness.

Katsugoro crawled out of his hovel also to thank Tokuyemon. The old man had known the young couple for some time, and his heart ached for them in their misery. He had assisted them from time to time to the best of his ability.

A wagon, drawn by a servant, rattled up to the hut.

"I had this wagon put together today," Tokuyemon said. "It is for you, my friends. I will tell you why. I received this morning from Lord Hojo, who is at Kamakura, *ninso-gaki* or 'personal descriptions.' They were accompanied by the command that, in the event of the discovery of a husband and wife whose appearances coincided with the descriptions, they should be placed under arrest and delivered to the authorities.

"I was thunderstruck to find that in every particular the descriptions apply to you both. Then, for the first time, I was convinced that you were Iimuma Katsugoro and Hatsuhana, who are known to be wandering the land over in search of their enemy. Your 'personal descriptions' are in circulation, my young friends, and it is dangerous for you to remain in this neighborhood.

"I was worried for your safety and had this wagon made. It is a rather crude affair—it was very hastily built—but it will enable Hatsuhana to wheel you away, Katsugoro, to some safer place. If you will take my advice you will leave as soon as possible. Don't let any grass grow under your feet."

CONTINUED NEXT SATURDAY.

ECONOMIC OPEN DOOR THE GOAL OF CONFERENCE.

By YONEJIRO ITO,

President of Nippon Yusen Kaisha.

ASIDE FROM the questions of limitation of armaments, I hope that Japan will advocate in the Washington Conference the open door for the world commerce.

In the Covenant of the League of Nations there is stated (Article XXI) "that provisions shall be made through the instrumentality of the league to secure and maintain freedom of transit and equitable treatment for the commerce of all states." This provision is the embodiment of one of President Wilson's fourteen points which urged the equal opportunity for all nations in commerce and trade. This is a principle which no one can reasonably object to, and yet it has been ignored in practice, and the old spirit of commercial exclusionism has been given a fresh revival.

I shall state a few examples of current exclusionism. England has for some time had an arrangement with her colonies by which the goods imported from the mother country were charged a lower rate of duty that the goods imported from foreign countries. Since a year before last this privilege has been rendered reciprocal, and England now grants special tariff rates to certain commodities imported from her colonies. The government of Australia has quite recently put into force a navigation act forbidding foreign ships from engaging in coastwise service. America has also enacted the Jones Shipping Act, which, among other provisions, prohibits (becoming effective February, 1922) foreign ships to carry goods between the Philippines and the mainland of the United States, grants differential tonnage dues and customs tariff for American ships and their cargoes and provides for lower railroad freight rates for the goods that are to be carried on American bottoms. It is thus evident that the practical tendency is moving in the opposite direction from the ideal. Here, then, is a strong reason why Japan should champion in the coming conference for the vital cause of economic open door of the world, which is the only true basis for permanent peace and prosperity.

GERMANY RETURNS TO THE CHINA MARKET

WITH THE CONCLUSION of the Chino-German agreement, by which the state of war between these two countries was brought to an end on July 1, Germany returns to a field in which she has long been keenly interested commercially and where she has been and again will be warmly welcomed. Before the war Germany occupied a prominent place in China's foreign trade, a more prominent part than the trade returns indicated, because large quantities of German goods found their way into China through Hongkong as British goods and by way of Dutch and Belgian ports as Dutch or Belgian products. German nationals went to greater pains than any others to get close to the Chinese, with the result that, after their Japanese kinsmen, the Chinese felt that no other people understood them so well as the Germans.

All signs point to a return of the keenest sort of competition between all the old rivals, the Americans, the British, the Japanese and the Germans, for the trade of China.

WHEN THIS OLD WORLD WAS YOUNG.

(Continued from last Saturday.)

AFTER THE CLANGING of the gates he heard the sound of many hurrying feet, and a rustling noise as of screens being opened. Strong hands assisted Hoichi in the mounting of a long flight of steps. Arriving at the top, he was told to remove his sandals.

A woman, fair as evening, took him by the hand and led him to a vast apartment, where, he judged, there was a great company assembled. The subdued murmur of voices filled his ears, and the silken swish of fine garments. Hoichi was bidden seat himself upon a cushion, and then the woman who had been his guide bade him recite the story of the great battle of Dan-no-ura.

To the accompaniment of his *biwa* Hoichi began a chant. With surpassing skill he seemed to imitate, with the strings of his instrument, the sound of oars, the movement of ships, the shouting of men, the noise of surging waves, the whirring of arrows.

Hardly had he begun this wonderful performance than there was a low murmur of approbation. Encouraged, he continued to sing and play, throwing his whole soul into it. The company was swayed by the spirit of his narrative, now fierce and warlike, now reduced to tears, as when he recounted the perishing of women and children, the plunge of Nidono into the sea with the infant emperor in her arms.

At length the minstrel-priest finished his lay. The woman who had acted as Hoichi's guide informed him that her lord was well pleased with his performance and that he desired Hoichi to play for him for the next six nights.

"The retainer who brought you hither," she said, "will visit your temple at the same hour tomorrow. You must say nothing of these visits. Now you may return to your abode."

Hoichi was conducted back to the temple by the same means as he had been brought to this place.

HIS ABSENCE DISCOVERED.

The next night Hoichi again was led forth to entertain the assembly. He met with the same success as before. This time, however, his absence from the temple was discovered. Upon his return he was subjected to a stiff cross-examination regarding his movements. Hoichi evaded the questions, saying simply that he had been away attending to a private matter.

The priestly questioner was far from satisfied. He regretted Hoichi's reticence and expressed the fear that something was amiss. Possibly the blind priest had been bewitched by spirits of the dark. The men servants were instructed to keep strict watch upon Hoichi, and to follow him in the event that he should again leave the temple during the night.

On the third night Hoichi again left his couch. Hastily lighting their lanterns, the men servants followed him. But during the few brief moments they were getting their torches ready, Hoichi gave them the slip. Now they made inquiries right and left, but were unable to ascertain the whereabouts of the priest.

Returning to the temple, they were frightened to hear the sounds of a *biwa* in the temple cemetery. They entered the gloomy yard and found the blind priest seated at the tomb of Antoku Kenno, the infant emperor. Hoichi twanged his *biwa* loudly and chanted the story of the battle of Dan-no-ura. Mysterious fires glowed on every side. It looked for all the world like a convention of lighted candles.

"Hoichi!" the servants shouted. "Hoichi! Stop your playing! You are bewitched, Hoichi!"

The blind priest did not seem to hear them. He continued to play and sing. He appeared as one possessed.

CONTINUED NEXT SATURDAY.

WASHINGTON CONFERENCE AS BUSINESS CONFERENCE.

By SANJI MUTO,

General Manager of Kanegafuchi Spinning Corporation.

THE PUBLIC SENTIMENT in Japan has been greatly stirred up since America proposed the Washington Conference for limitation of armament and settlement of Pacific problems. In my judgment, we are needlessly excited. The true purport underlying the proposal, as I take it, is the desire to help the economic rehabilitation of the allied nations from the great losses caused by the war, and to find ways for the restoration of financial stability and prosperity of the world. Without dispute, the best way to accomplish these purposes is to devise a practical means of curtailing armament. For armament competition is the principal source of the financial difficulties confronting the nations concerned.

If America and Japan compete in armament, England will also be obliged to keep the pace. If England increases her armament, the European nations will find themselves compelled to keep up heavy armament. The only way out from this hopeless vicious circle is for such nations as America and Japan, which came out of the war with strengthened financial position, to initiate the reduction of navy and army. This will surely go far to relieve all nations of great burdens. I sincerely hope, therefore, that my country will co-operate in unison with America to make the true object of the conference promptly realized.

The problems of China will no doubt occupy main parts of the conference's business. This is only natural inasmuch as the development of natural resources of China is essential for the restoration of economic strength of Europe. China—an orderly and peaceful China—forms market of some four hundred million consumers, and a storehouse of boundless natural resources. Economic future of Europe, accordingly, depends much upon the conditions of China. With most earnest effort and sincere heart Japan must co-operate with the European powers in the work of reconstruction of their shattered fortunes. The best Japan can do at this particular task is to strongly back America in the realization of the policy of "Open Door and Equal Opportunity in China." With this in view I hope Japan will agree to the Chinese proposal to abolish consular jurisdiction and recover the tariff autonomy, within a certain prescribed period, on the condition that China should direct her utmost effort towards remedying the internal maladministration and assuring the protection of foreigners, granting to them the freedom of domicile, communication and trade everywhere in the country.

In short, President Harding's call for a conference is no cause for alarm to my countrymen, but, on the contrary, it is a felicitous, mutual get-together in which Japan can sit, as in a conference of relatives, with ease, confidence and eagerness to contribute her quota for the welfare of the whole community.

By SOSEKI NATSUME.
(Translated by a Japanese Schoolboy.)

INEFFABLE MASTER comprete a reading in the trance-like woice but those three audiences didn't think he were through or done with the reading because his piece were so short and they couldn't get a hold of the meaning, and so they all waited the some more to follow shortly. And so they waited and they waited and they waited, and then they waited and they waited and they waited, so then finally the Cold Moon asked of the sapient master:

"Oh, say, are that all?"

To the which the sagacious master make the answer, "Uh!"

It were passing strange but Meitei didn't dub with his passing idol talk as usual on the masterpiece but finally he faced the insistent master squarely and inquire:

"Hi, there, Kushami, what do you think of the idear to collect all your short piece in a volume and dedicate to somebody or other?"

Foxy master were primed with the so ready answer:

"Shall I bestow you the honor of the dedication?"

"No thank you."

Remark the Meitei and trim his finger nail with the pair of the scissor he showed to the dear madam some moments a back. Presently the Cold Moon asked to the East Wind:

"Are you acquaint with a young girl that belongs to the Kaneda?"

INSPIRING FEMININITY.

"Yes, of course, I are familiar with her since we inwited her to a reading society and we maintain a friendly relation since then. Whenever I come in a presence of her I feel an inspiration and my interest are greatly stimulated in making a poems. The reason I have such vast number of poem on hand on the love subject in this here wolume are because I receive the inspirations from a friend who are joined to the different sex, I presume. Now, therefore, because I shall have to make the showing of my gratification to her truthfully, I dedicated this wolume to her, grasping at this chance. Since the olden time, there have never been one single case on record of poets of note who did not receive the inspiration from a sweet woman friend of his, so I are reliably informed."

"Are that so, indeed?" answer the Cold Moon in the excitement, laughing in the depth of his face. Although they merely are the bunch of balderdashers they soon approach the limit of topics for the idol talk and their enthusiasm comes to a low ebb. I are got no duty to listen at them all day long so I slipped off to the garden to make a hunt for a praying-mantis. The sun were making the shines through the green leaf of a sultan's parasol and insect were singing on the tree trunk so diligently. Maybe it are going to precipitate abnormally this night.

I undertook an exercising recently. I have a word or two to them people what are apt to speak: "Ha, the cat taking an exercise?" For the silly human beings, up to some time back, were not informed what are the meaning of an exercise and they simple eat and slept and they imagine this were the business handed to them by the kind heaven. Idol man were taken for the superior high class man instead of a tramp. It are an imported idear to take an order for traveling to the mountain when a summer comes and to eat up the cooling mist. These are a sort or kind of disease transmitted to Japan from Occident and you might almost be so bold as to class it together with that pest, Mr. T. B., nerverous prosteration.

REVIEWING THE PAST.

I was born last year. I mean by that of course just a little bit more than the year ago, and, quite naturally, I do not carry anything in my memory when human being on this here land started or commenced to take this kind of the disease, but one year of a cat are equal to ten year in the man's life. A life of the cat are only about one half or a third as long compared to that of the man. Nevertheless the cat can manage to develop quite fully during that short span of the time, and therefore it are the unreasonable mistake to make the comparison of an age of the man and a cat on the same common level or standard.

I say this are conclusively proved by fact that a cat as myself who are a few months over the one year old have this much understanding and the judgment. Third daughter of our oily master are said to exceed more than two in years, but when we consider or take into consideration the development of the intelligence, why, I ask to know, are she so wery dull? She have no knowledge but to make cry and do the drink of milk and a watery mushes. A cat as I am but who are a-worrying great deal about a social condition are superbly superior in the comparison with that kid.

Therefore it are not surprising for me to have in my head all about a history of taking the exercises. If there was any single man what are surprised by knowing my smartness, why I should just nacherally name him a simpleton who missed two legs. Man were the big simpleton from a time immemorial. And that are why they hold it great discobery to realize the wirtue of the exercise and spread the idea and likewise wolubly talk about the adwantage of bathing in a salt sea. I knew so well all those thing before I were born.

Now, to have the complehension why a salt sea are salacious for one's health, you have to only go to a seashore. There are uncountable fishes residing in a sea but none of them ever got sick and sent a summons for the doctor. All of them are to this wery day healthy and swimming. When one of 'em fetch up sick it are when body grow numb and if it die it will float on a surface of water of ocean. That are the only reason why we say a fish float when he make himself dead.

THE WONDER OF FISHES.

Ask any man ever has passed Indian Ocean if he saw or observe any fishes lying down there in the death. All of them will ejaculate, "No!" like that. That are as it should be so. How many time one passes over an Indian Ocean one never find fish enjoying his latest gasp or breath in water. It couldn't be latest breath for he do not breathe at all from a beginning. I should call it more correctly his act of swallying the gulp of salt water. He have sucked his last sea water and are floating so suppinely on his back. That are how I express the same.

You hire the steam ship, feed it with the coal, and make careful and painstaking search of a vast ocean day and night also, and you can find absorutely no frish floating and so you must allow yourself to be forced into the opinion or conclusion that a fish are the unusually strong living thing.

You don't have to stop a man to ask him the reason why. That are so simple to understand. The reason are because it drinks sea water as a diet. Taking his bath in sea water are so clearly shown in the case of fish.

Since it are so bennyficial it also should be wanderfully beneficial to the man also or as well. It are laughable to contemprate the advertisement for Dr. Richard Russel at Briton, that if the man take a bath in some salt water evelly day, all disease will fall off him and he will stand forth cured. When a proper time come cats will undertake journey to Kamakura by the beach alongside the ocean of the world. But not now. No, not now. There are the opportune time for almost everything. This are not an opportune time for such as this.

MORE THIS COMING SATERDY.